

建具表

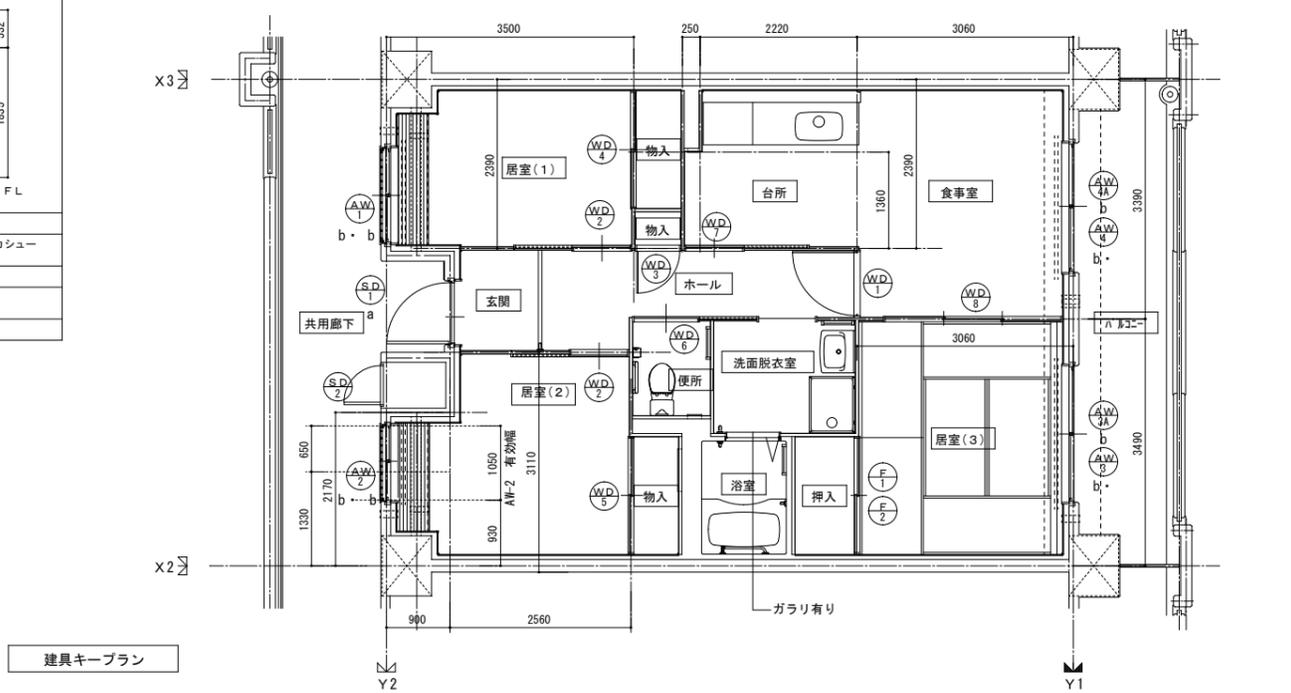
符号・形式	(S.D.1) スチール製片開き両面フラッシュドア	(S.D.2) スチール製片開き片面フラッシュドア	(AW.1) アルミ製引違いサッシ	(AW.2) アルミ製引違いサッシ	(AW.3) アルミ製引違いサッシ	(AW.3A) アルミ製引違いサッシ	(AW.4) アルミ製引違いサッシ	(AW.4A) アルミ製引違いサッシ
性能	特定防火設備		防火設備	防火設備	防火設備	防火設備	防火設備	防火設備
寸法	数量 850×1,900	数量 550×1,800	数量 1,320×950	数量 1,050×950	数量 1,900×1,800	数量 1,900×1,800	数量 1,900×1,800	数量 1,800×1,800
使用箇所	玄関	PS・MB	居室(1)	居室(2)	居室(3)	居室(3)(1階)	居室(3)(1階)	台所・食居室
図面								
枠・見込	枠: 80 扉: 36	枠: 42 扉: 35	枠: 70	枠: 70	枠: 70	枠: 70	枠: 70	枠: 70
仕上	溶融亜鉛メッキ鋼板 (両面t=0.5以上) SOP (特共)	溶融亜鉛メッキ鋼板 SOP	アルマイト (シルバー) の上、クリアー塗装	アルマイト (シルバー) の上、クリアー塗装	アルマイト (シルバー) の上、クリアー塗装	アルマイト (シルバー) の上、クリアー塗装	アルマイト (シルバー) の上、クリアー塗装	アルマイト (シルバー) の上、クリアー塗装
ガラス			網入り型板ガラス t=6.8	網入り型板ガラス t=6.8	網入り型板ガラス t=6.0	網入り型板ガラス t=6.0	網入り型板ガラス t=6.0	網入り型板ガラス t=6.0
金物	下蓋、シリンドラード錠 (耐ピッキング性能5分以上)、気密用ガスケット、ドアガード、受箱、ドアアイ、アングルピース、レバーハンドル、ステンレス執握、戸当り、ドアクローザー (既製)	ステンレス丁番、ケースハンドル、おとり止めチェーン付高金物一式	ロック付クレセント、アングルピース、二重水切	ロック付クレセント、アングルピース、二重水切	ロック付クレセント×2、振込引手、アングルピース	ロック付クレセント×2、振込引手、アングルピース	ロック付クレセント×2、振込引手、アングルピース	ロック付クレセント×2、振込引手、アングルピース
備考	錠前: 防犯建物部品対応、受け口 W250以上	前方縁気	RL-B型 サッシに準ずる。アルミ面格子	RL-B型 サッシに準ずる。アルミ面格子	RL-B型 サッシに準ずる。	防犯建物部品対応 RL-B型 サッシに準ずる。	RL-B型 サッシに準ずる。	防犯建物部品対応 RL-B型 サッシに準ずる。
符号・形式	(WD.1) 片開き入りフラッシュ戸	(WD.2) 片引き軽量戸	(WD.3) 片開き軽量戸	(WD.4) 引違い軽量戸	(WD.5) 引違い軽量戸	(WD.6) 片引き入りフラッシュ戸	(WD.7) 片引きフラッシュ戸	(WD.8) 3本引違い軽量戸
性能								
寸法	数量 885×1,783	数量 800×1,803	数量 610×1,788	数量 1,615 (1,440) ×1,988	数量 1,615×1,988	数量 1,615×1,988	数量 800×1,803	数量 800×1,803
使用箇所	ホール	居室(1), 居室(2)	ホール 物入	居室(1) 物入	居室(2) 物入	便所	台所	居室(3)
図面								
枠・見込	扉: 33	扉: 21	扉: 21	扉: 21	扉: 21	扉: 30	扉: 30	扉: 21
仕上	両面プリント合板 t=2.5 小口貼 (米相) t=8	両面: ビニール系機紙 枠: スプルス	ホール側: ビニール系機紙 枠: スプルス 物入側: 雲花紙	居室(1)側: ビニール系機紙 枠: スプルス 物入側: 雲花紙	居室(2)側: ビニール系機紙 枠: スプルス 物入側: 雲花紙	ホール側: プリント合板 t=2.5 便所側: 塩ビ合板 t=2.5 小口貼 (米相) t=8	両面プリント合板 t=2.5 小口貼 (米相) t=8	両面: ビニール系機紙 枠: スプルス
ガラス	樹脂ガラス t=2.5 シリコンシーリング留め					樹脂ガラス t=2.5 シリコンシーリング留め		
金物	ステンレス丁番 (2ヶ所)、アルミレバーハンドル おとり止め付上扉戸当り (1ヶ所)	内丸引手 (2ヶ所) ゴム戸当り15d (1ヶ所)	ステンレス丁番 2ヶ所、ステンレス製取手 ローラーキャッチ、通気孔4.5φ (表裏共・SUS430)	内丸引手 (2ヶ所)	内丸引手 (2ヶ所)	樹脂ガラス t=2.5 シリコンシーリング留め 握棒、非常解放装置付握棒 (表示付)、ゴム戸当り15d (1ヶ所)、テーパー付戸車 (2ヶ所)、アルミ台付レール (S)	テーパー付戸車 (2ヶ所)、アルミ台付レール (S)、内丸引手 (2ヶ所)、ゴム戸当り15d (1ヶ所)	内丸引手 (6ヶ所)
備考	<内装部品>	<細子ペーパーハニカム戸襖>	<細子ペーパーハニカム戸襖>	<細子ペーパーハニカム戸襖>	<細子ペーパーハニカム戸襖>	<内装部品>	<内装部品>	<細子ペーパーハニカム戸襖>
符号・形式	(F.1) 引違い機戸	(F.2) 引違い機戸 (天袋)						
性能								
寸法	数量 1,615×1,800	数量 1,615×532						
使用箇所	居室(3) 押入	居室(3) 押入						
図面								
枠・見込	扉: 21	扉: 21						
仕上	居室(3)側: 新鳥の子紙 押入側: 雲花紙	居室(3)側: 新鳥の子紙 押入側: 雲花紙						
ガラス								
金物	引手 (金属製)	引手 (金属製)						
備考								

- 特記
- ① 建具寸法 (W×H) は、開口内法有効寸法とする。
  - ② 備考欄にある <> は、内装部品とする。
  - ③ 網入りガラスは、シリコンシーリング留めとする。
  - ④ WD- のシリコンシーリング留めは、A型シリコンシーリング材 (1成分形、高モジュラス形) 9030Gとする。
  - ⑤ 耐風圧性は、4階以下: 2.0 (S-4)、5階以上: 2.80 (S-6) とする。(耐風圧強度計算書は提出すること)
  - ⑥ RL-B型サッシは、日本工業規格に規定する試験方法により透過損失の平均値が、2.0db以上であること。
  - ⑦ 有効開口幅は建具の厚み、引き残しを考慮した幅とする。

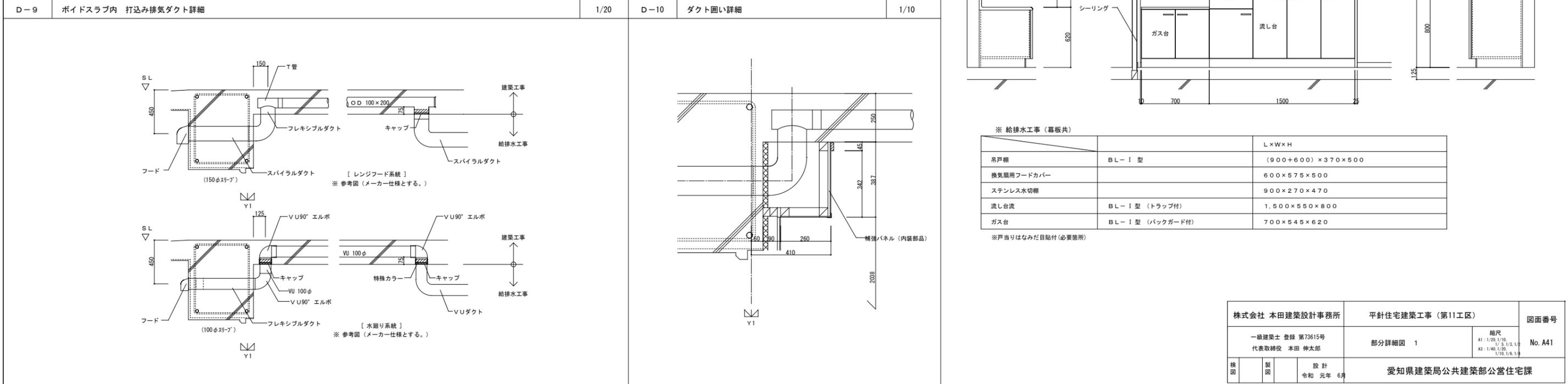
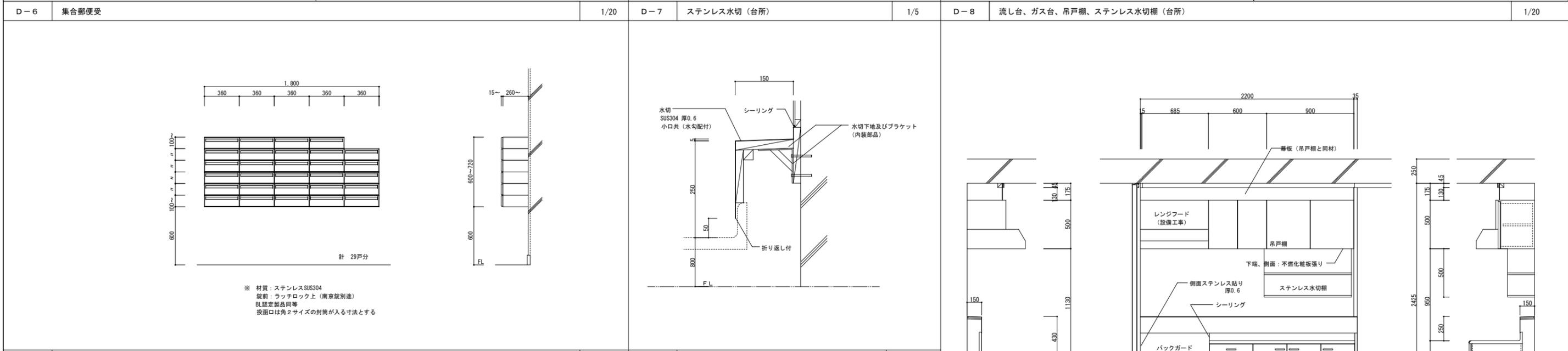
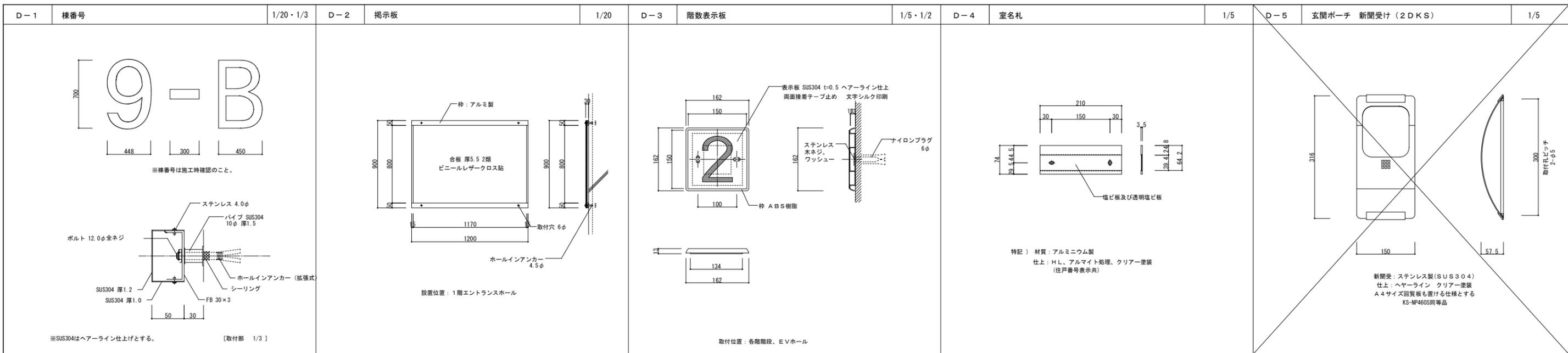
※T-1以上を使用すること。(共通)

区分記号	防犯対策区分内容	設置階
a	住戸の出入口	すべての階
b	地面から開口部の下端までの高さが2m以下、又はn'k2-等から開口部の下端までの高さが2m以下であって、かつ、n'k2-等から当該開口部までの水平距離が0.9m以下であるもの (a.に該当するものを除く)	1階
c	その他の開口部	該当なし
b・	区分b.のうち共用廊下または共用階段等の近傍にあるもの	2階以上
b・	区分b.のうちn'k2-等の近傍にあるもの	2階以上

※防犯建物部品対応 (区分a, bのn'k2-側に該当する) 開口部は侵入防止対策上有効な措置の講じられた開口部とする。



建具キープラン

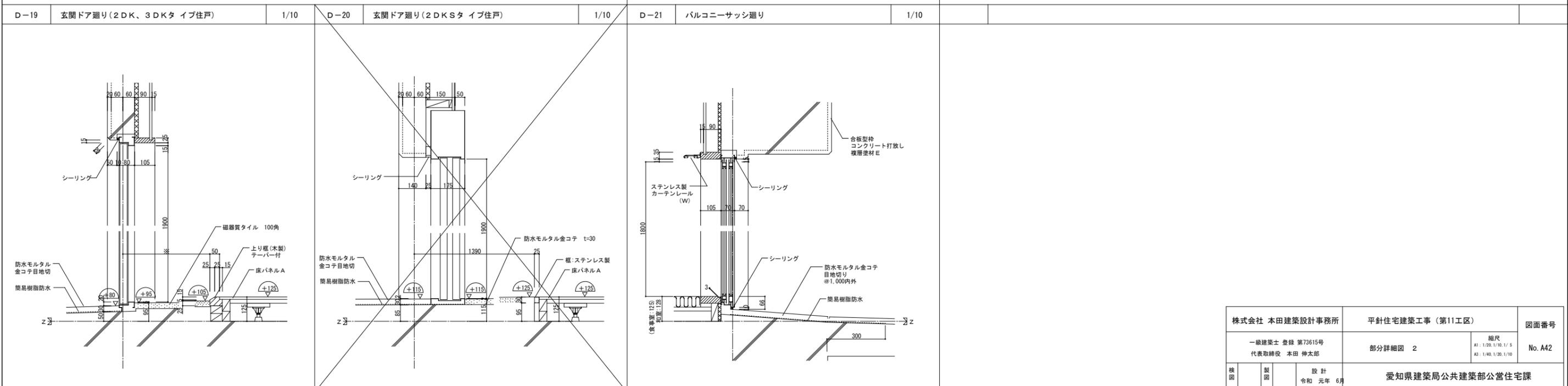
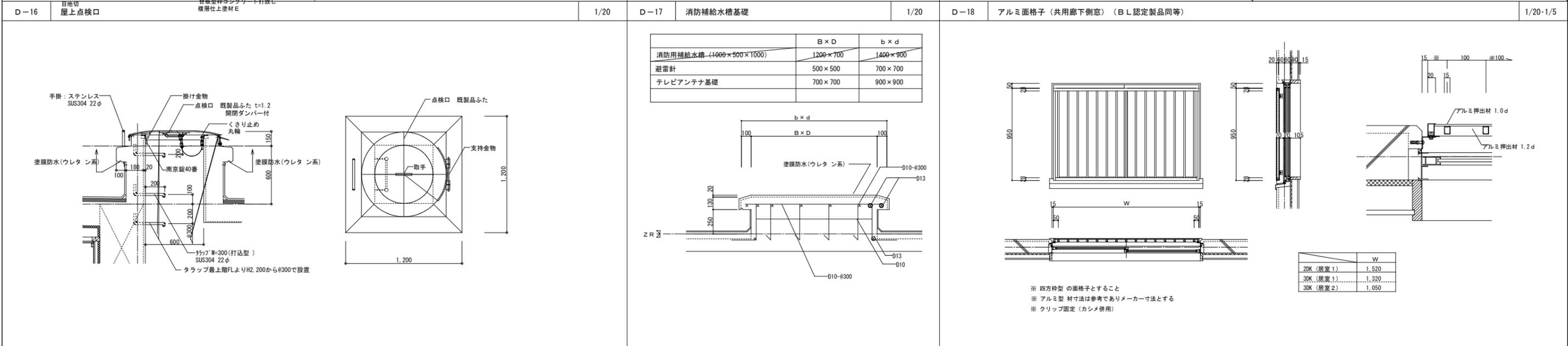
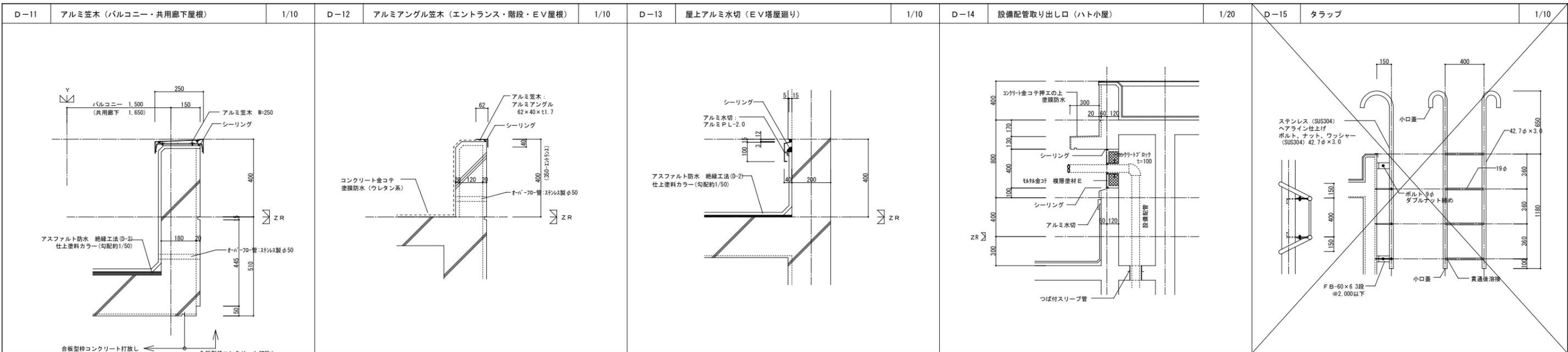


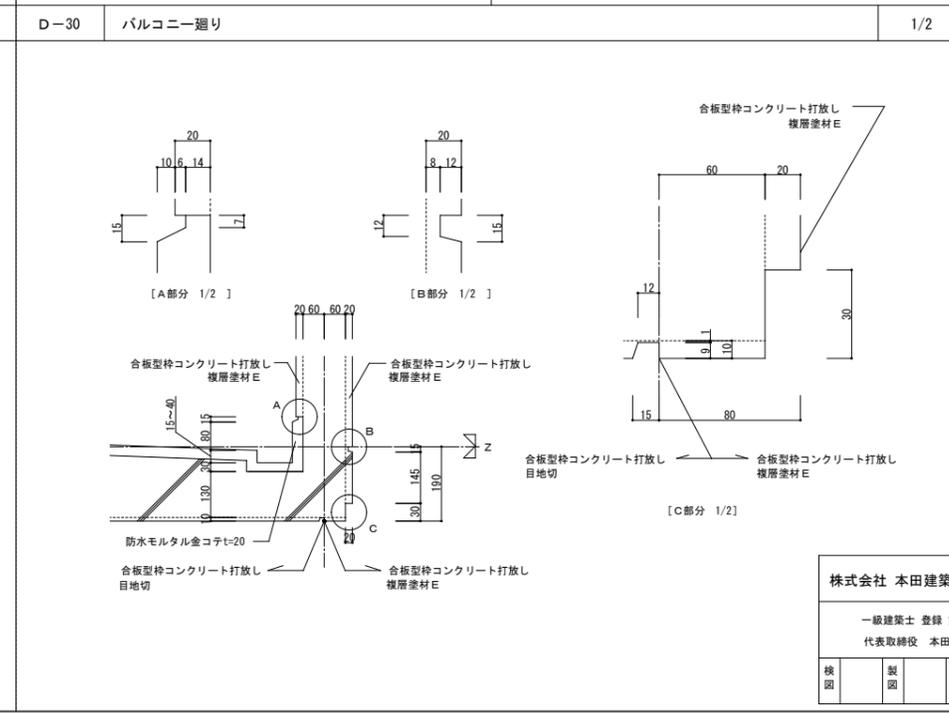
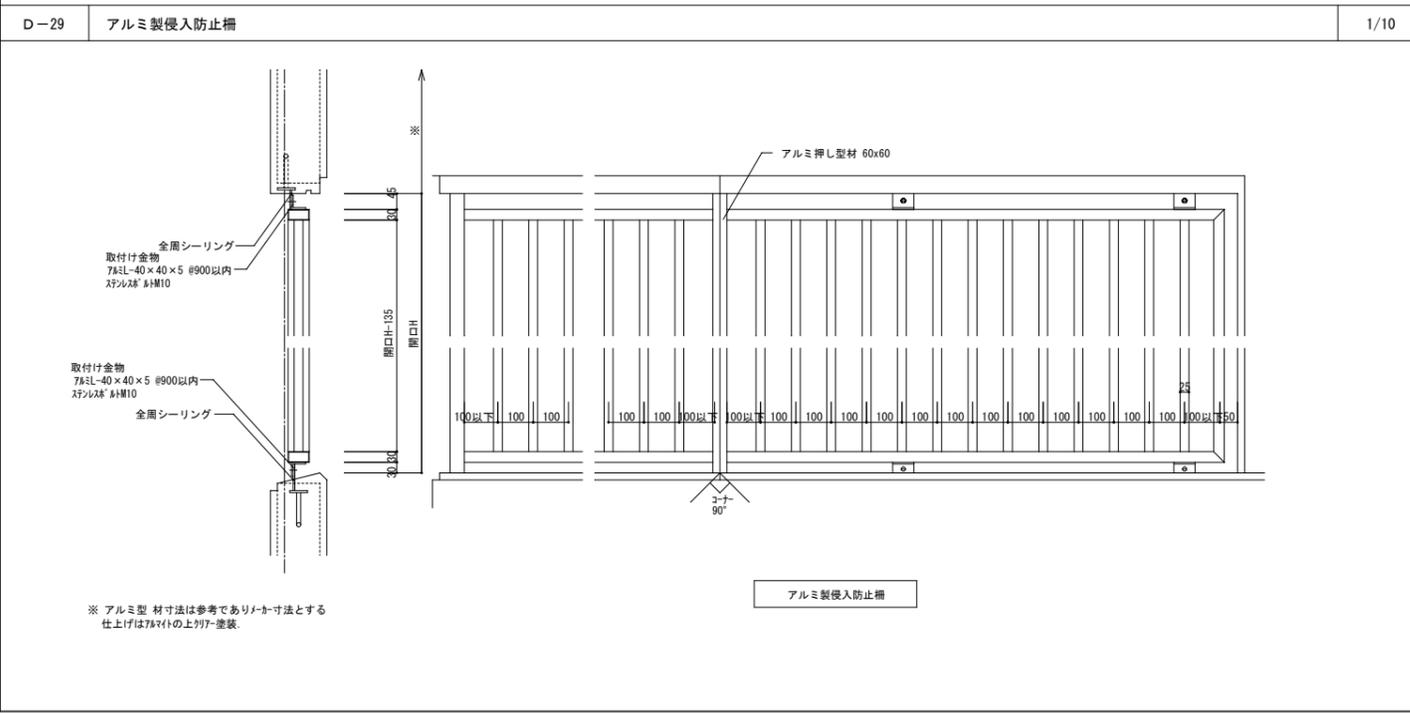
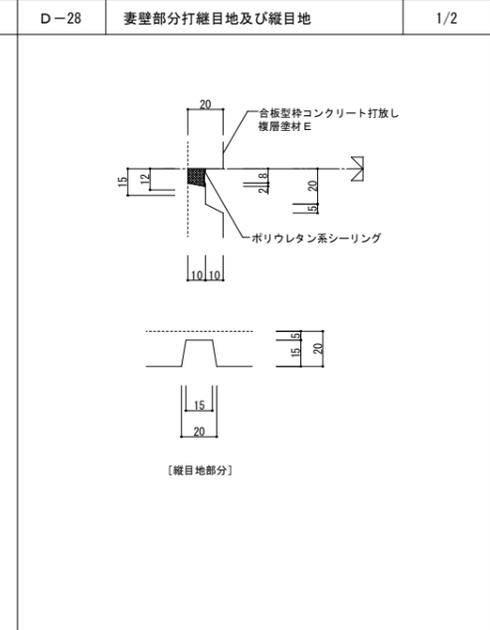
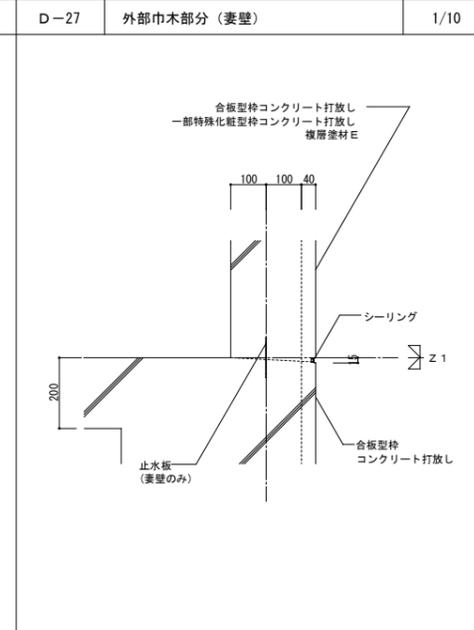
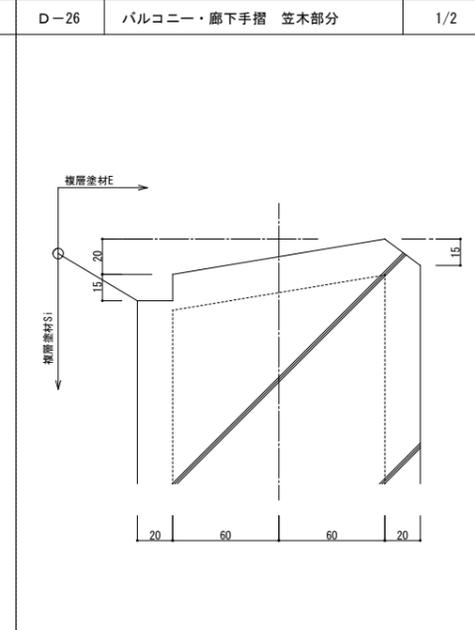
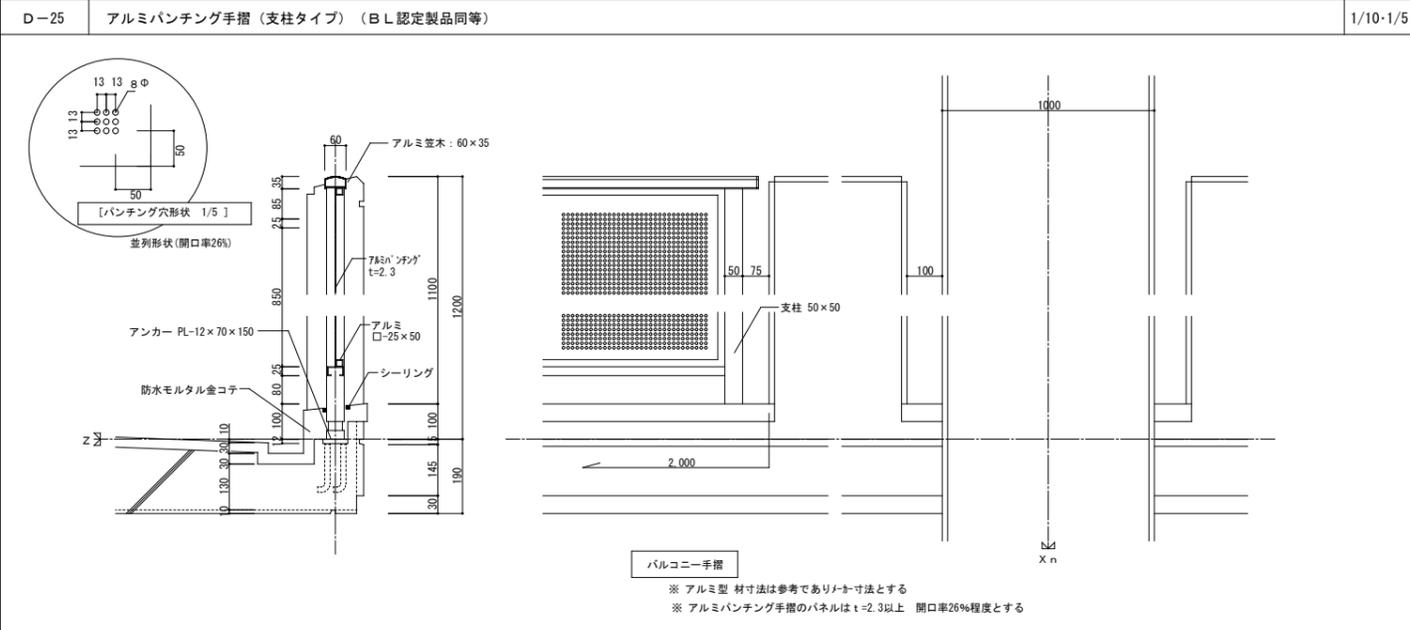
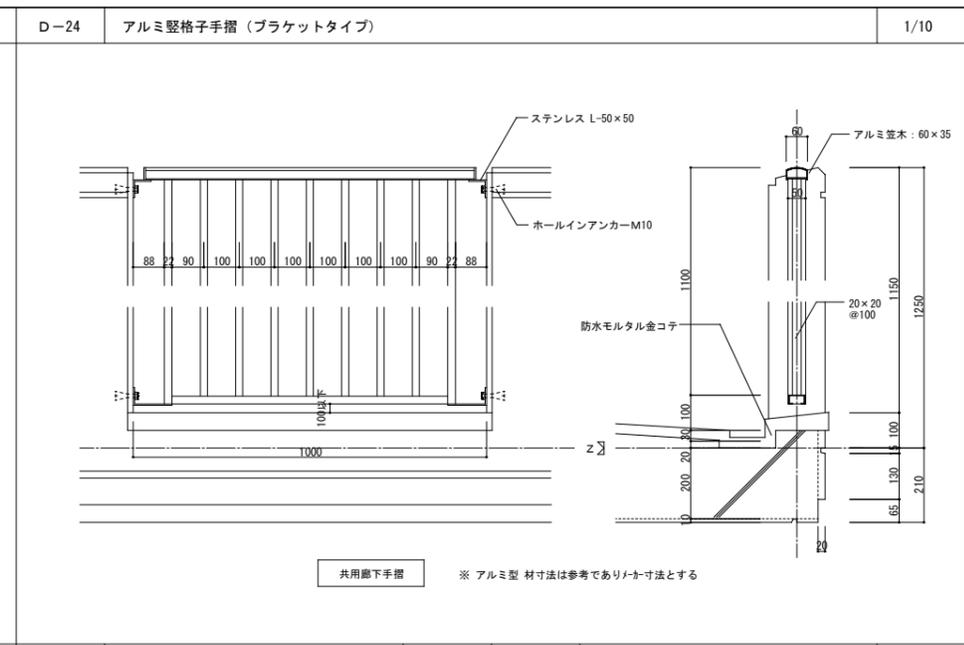
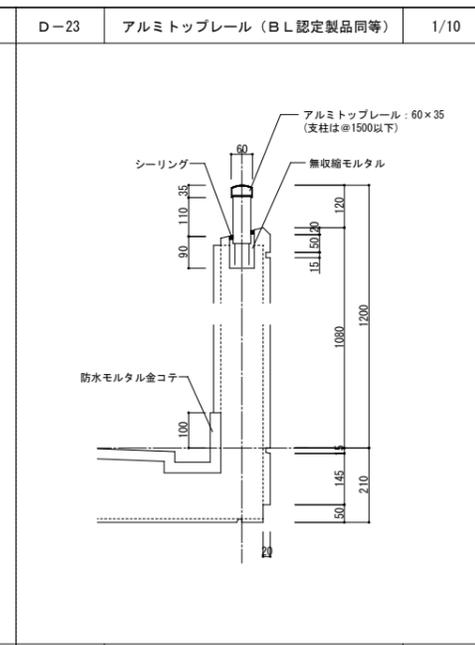
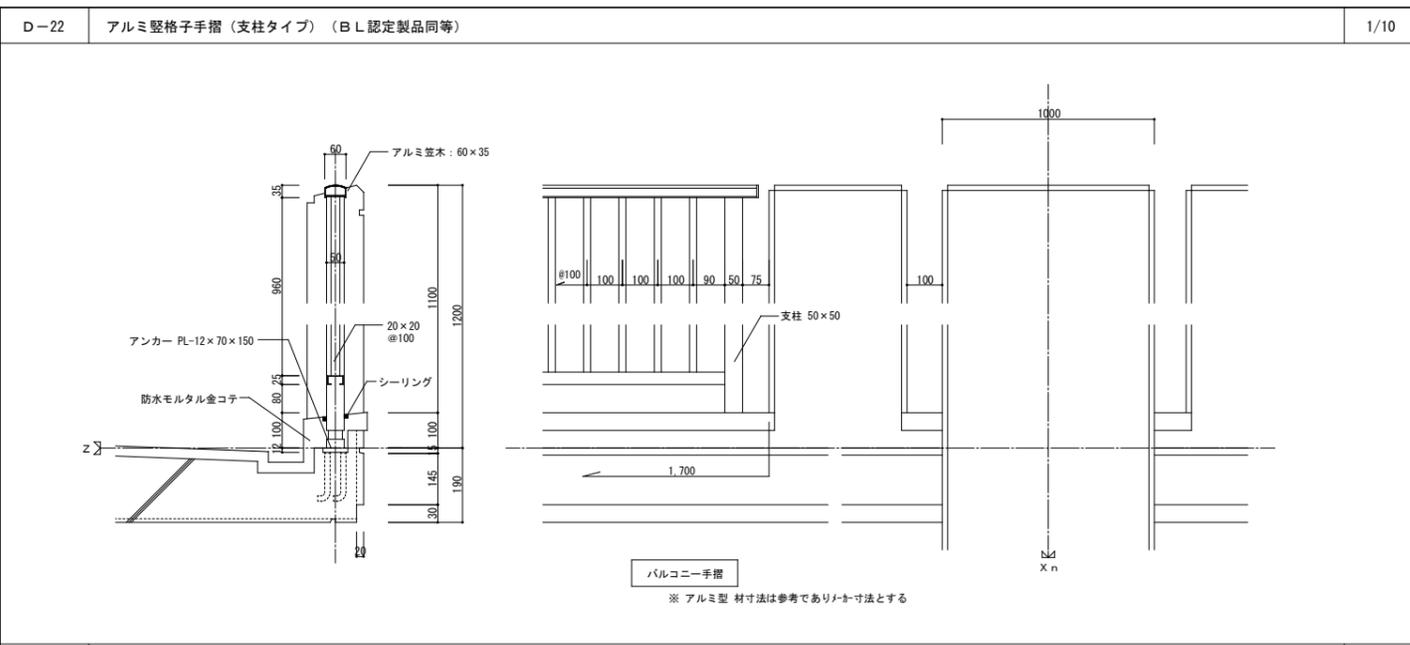
※ 給排水工事 (幕板共)

	型	L×W×H
吊戸棚	BL-I 型	(900×600) × 370 × 500
換気扇用フードカバー		600 × 575 × 500
ステンレス水切棚		900 × 270 × 470
流し台洗	BL-I 型 (トラップ付)	1,500 × 550 × 800
ガス台	BL-I 型 (バックガード付)	700 × 545 × 620

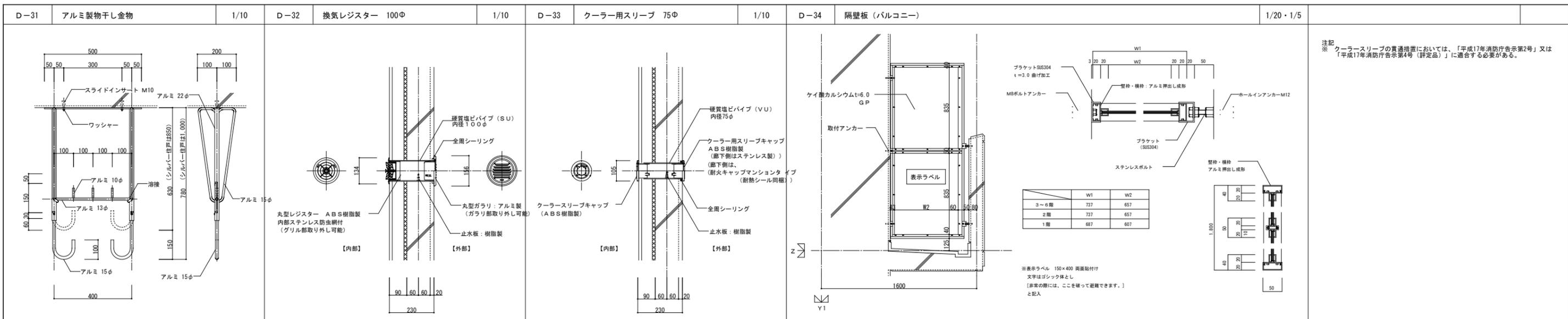
※ 戸当りはなみだ目貼付 (必要箇所)

株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)	図面番号
一級建築士 登録 第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	部分詳細図 1	縮尺 A1: 1/20, 1/30, A2: 1/40, 1/50, A3: 1/60, 1/80, 1/100, 1/150
検 図	製 図	設 計
		令和 元年 6月
愛知県建築局公共建築部公営住宅課		

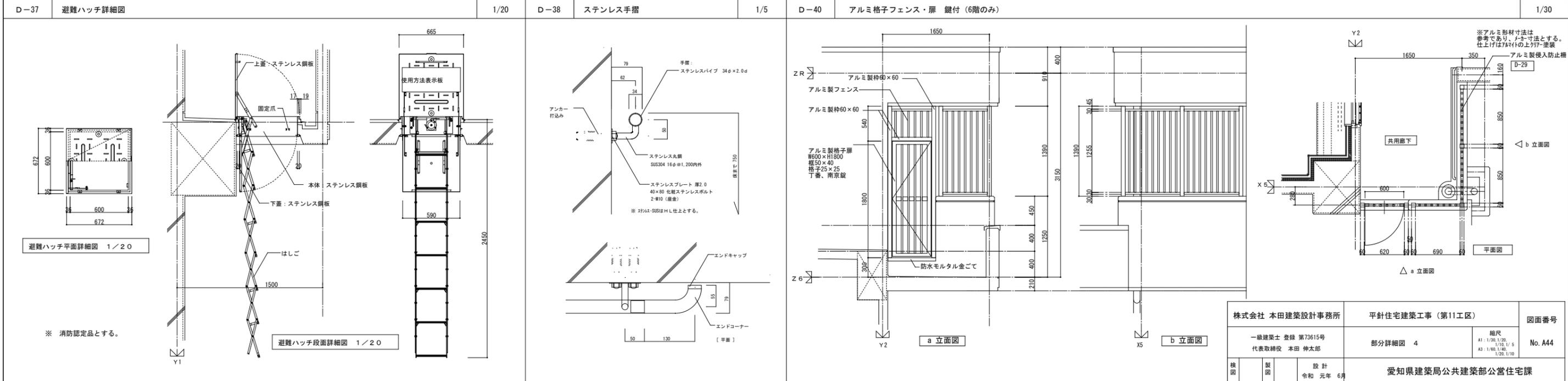
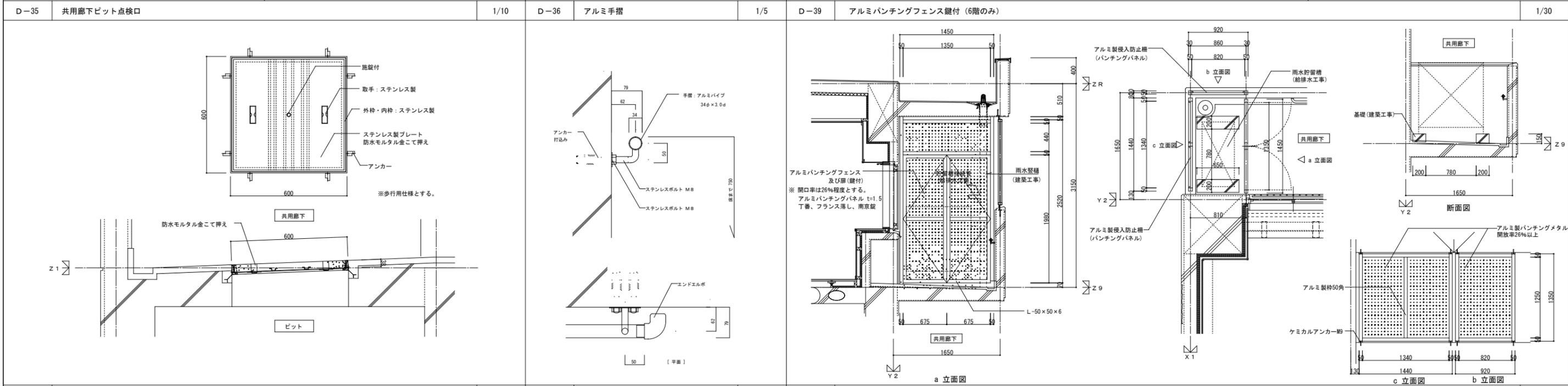




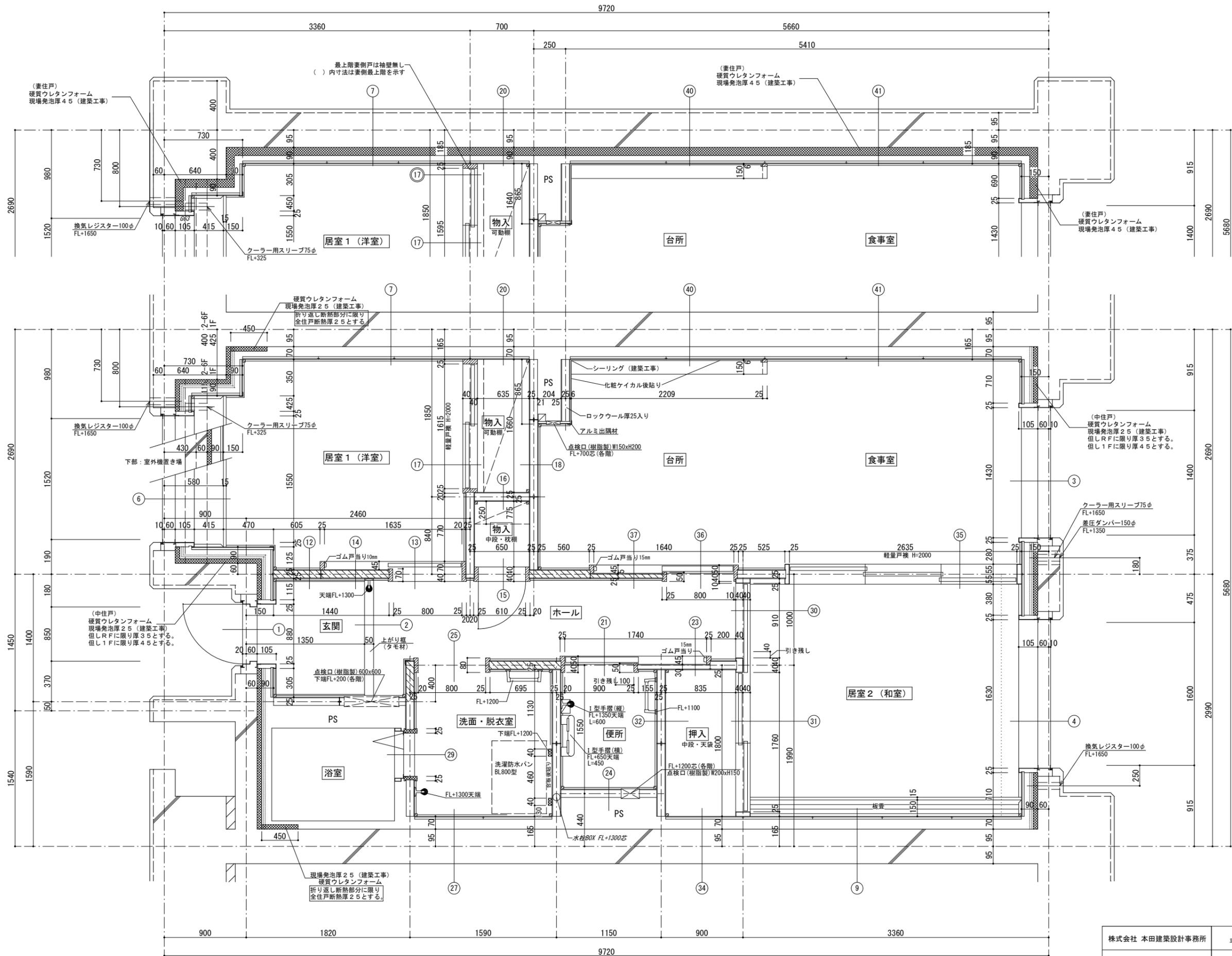
株式会社 本田建築設計事務所		平針住宅建築工事（第11工区）		図面番号
一級建築士 登録 第73615号 代表取締役 本田 伸太郎		部分詳細図 3		No. A43
設計 令和 元年 6月		縮尺 A1: 1/10, 1/5, 1/2 A3: 1/20, 1/10, 1/4		
愛知県建築局公共建築部公営住宅課				



※ クーラー用スリーブの貫通措置においては、「平成17年消防庁告示第2号」又は「平成17年消防庁告示第4号(評定品)」に適合する必要がある。



株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)	図面番号
一級建築士 登録 第73615号	部分詳細図 4	縮尺 A1: 1/20, 1/20 A3: 1/60, 1/60 1/20, 1/10
代表取締役 本田 伸太郎		No. A44
検 図	製 図	設 計
		令和 元年 6月
愛知県建築局公共建築部公営住宅課		



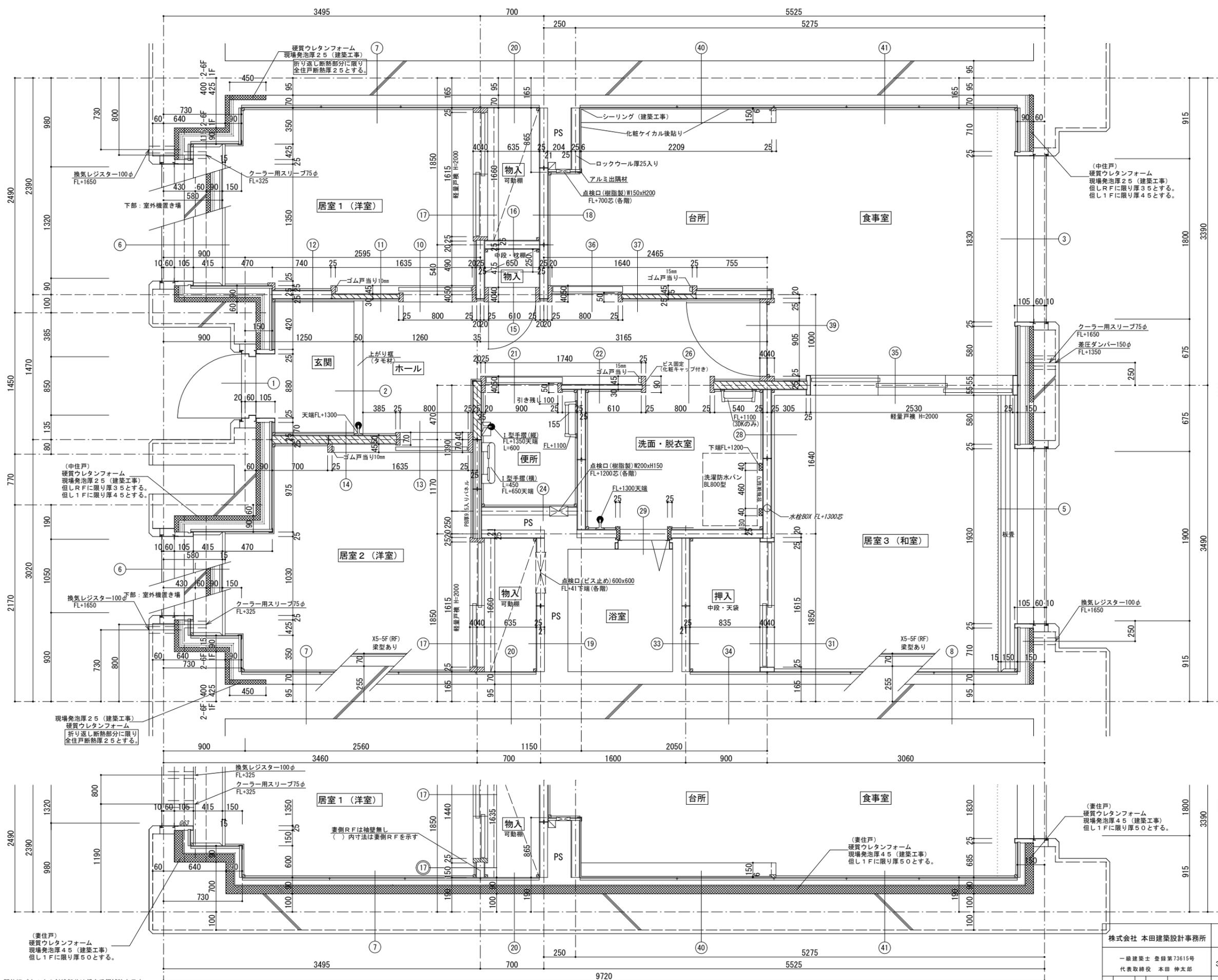
D K側妻側戸

最上階：梁型なし

中間戸

間仕切パネル内の斜線部分は将来手摺補強を示す。  
(玄関・ホール FL+800)

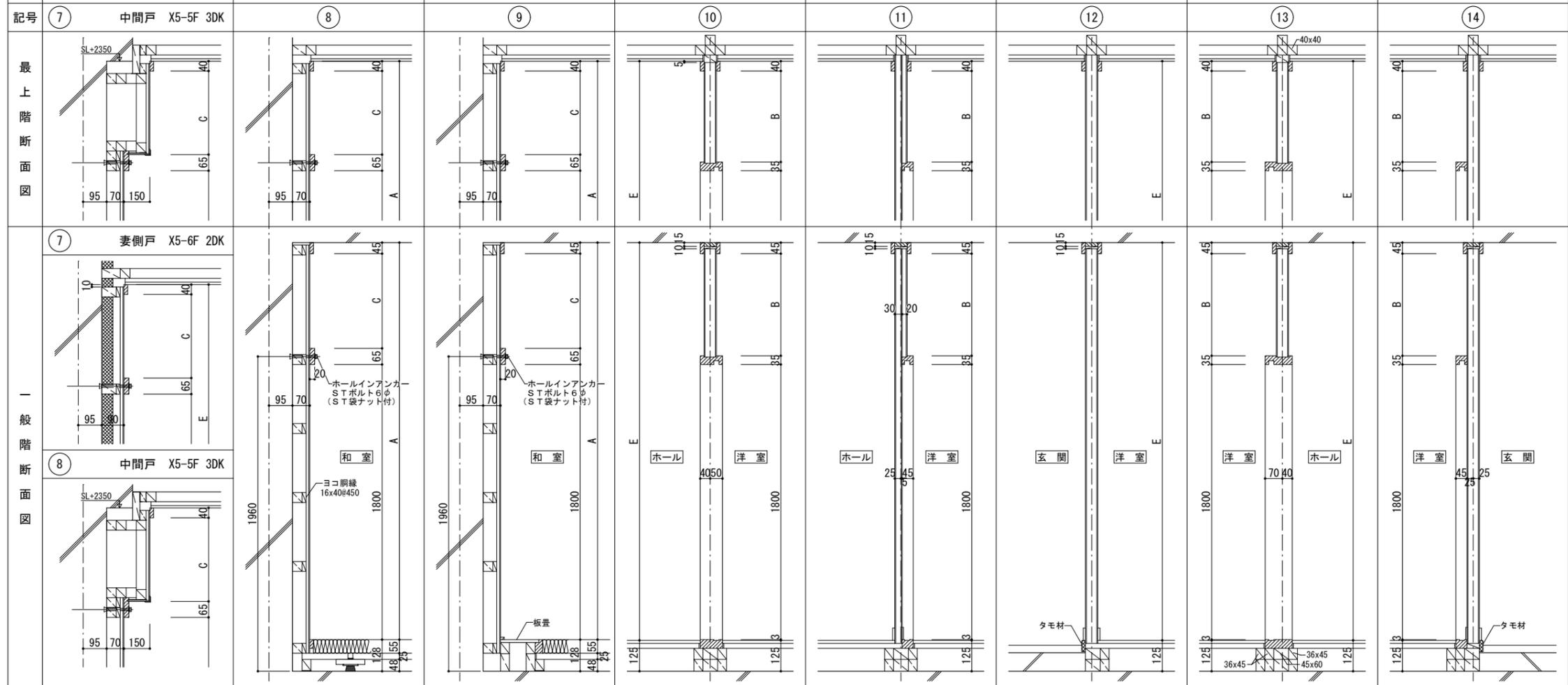
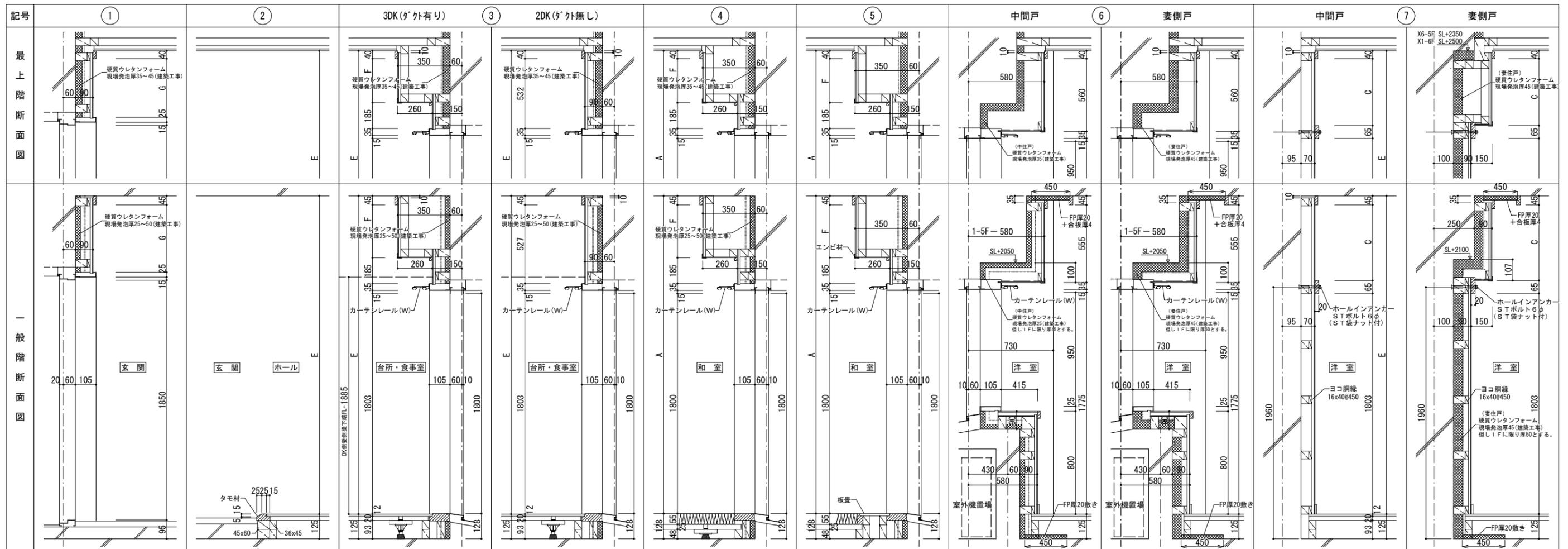
株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)	図面番号
一級建築士 登録第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	2DKタイプ 内装平面詳細図	縮尺 A1: 1/20 A3: 1/40 No. A45
検 査 製 図 設 計 令和元年 6月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	



DK側妻側戸  
 最上階：梁型あり  
 一般階：梁型あり

間仕切パネル内の斜線部分は将来手摺補強を示す。  
 (玄関・ホール FL+800)

株式会社 本田建築設計事務所		平針住宅建築工事 (第11工区)		図面番号
一級建築士 登録第73615号 代表取締役 本田 伸太郎		3DKタイプ 内装平面詳細図		縮尺 A1: 1/20 A3: 1/40
検	製	設	計	No. A46
令和元年 6月		愛知県建築局公共建築部公営住宅課		

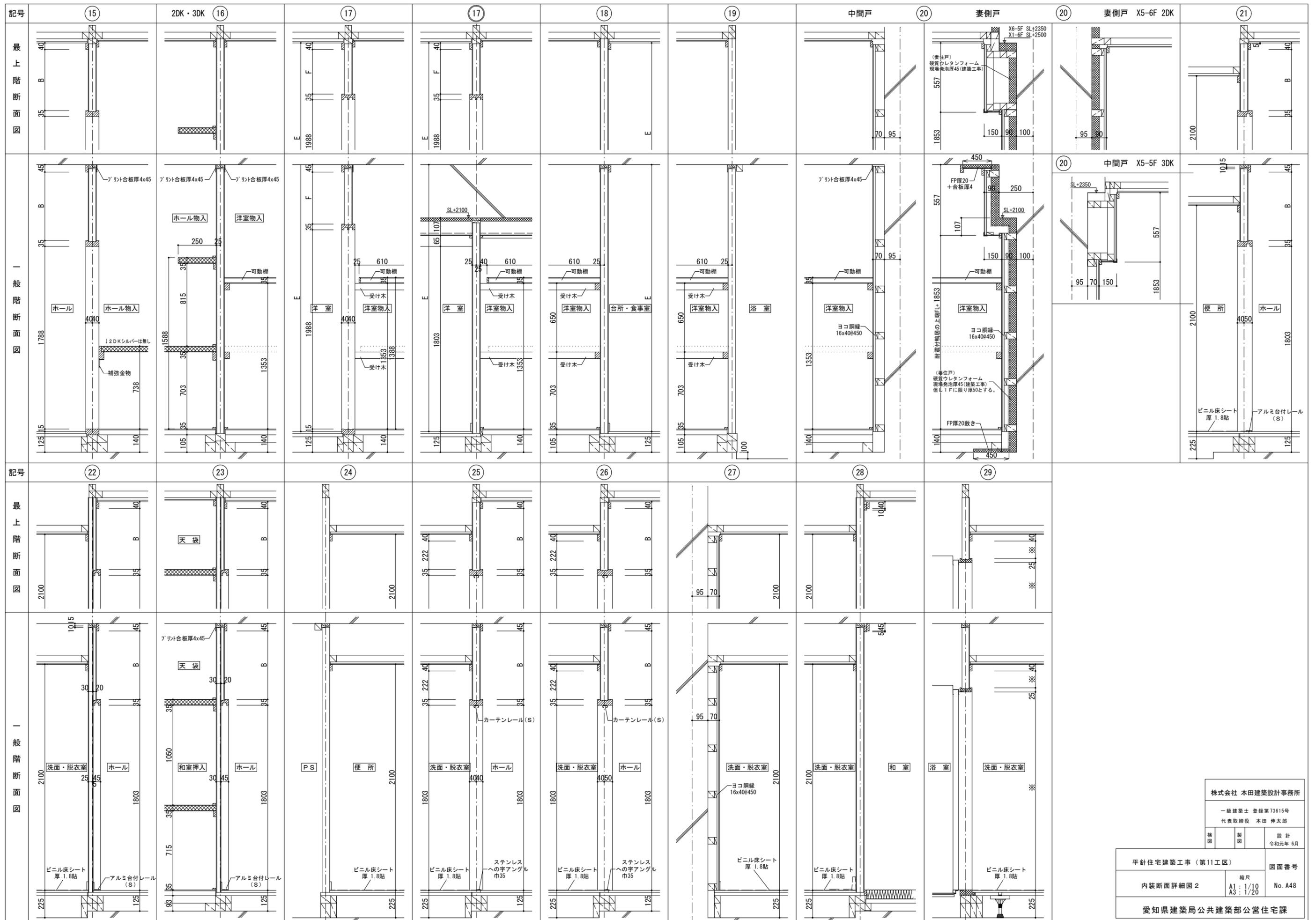


スラブ厚250mm/mに対する高さ寸法

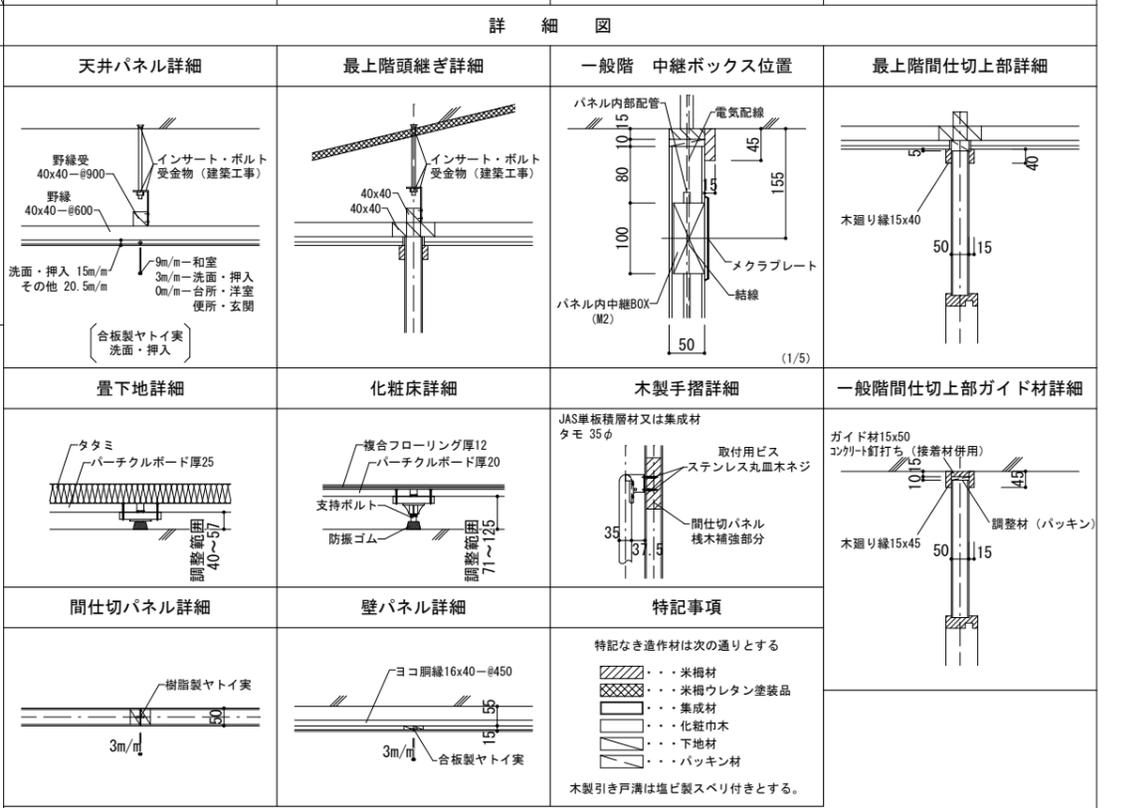
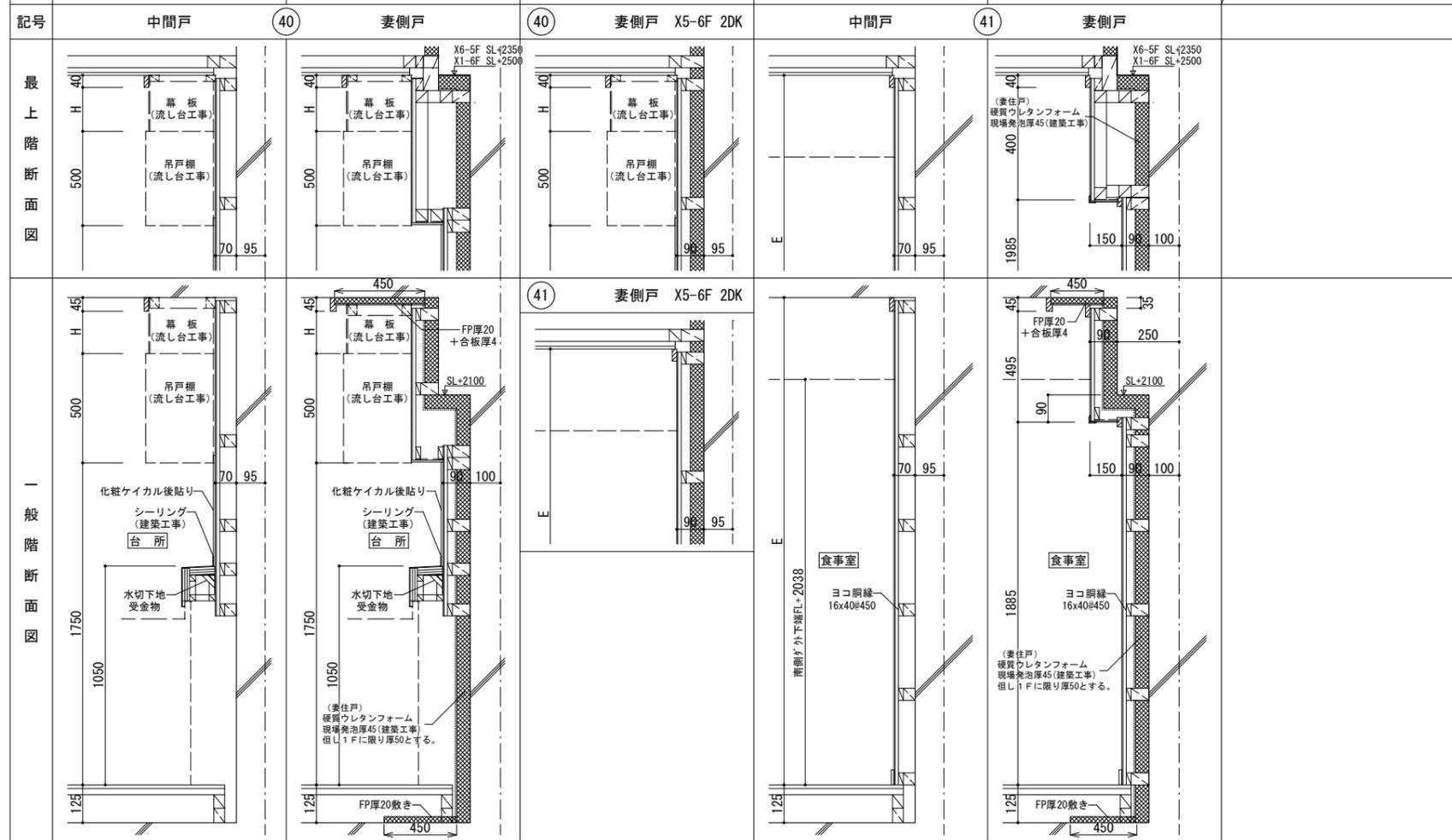
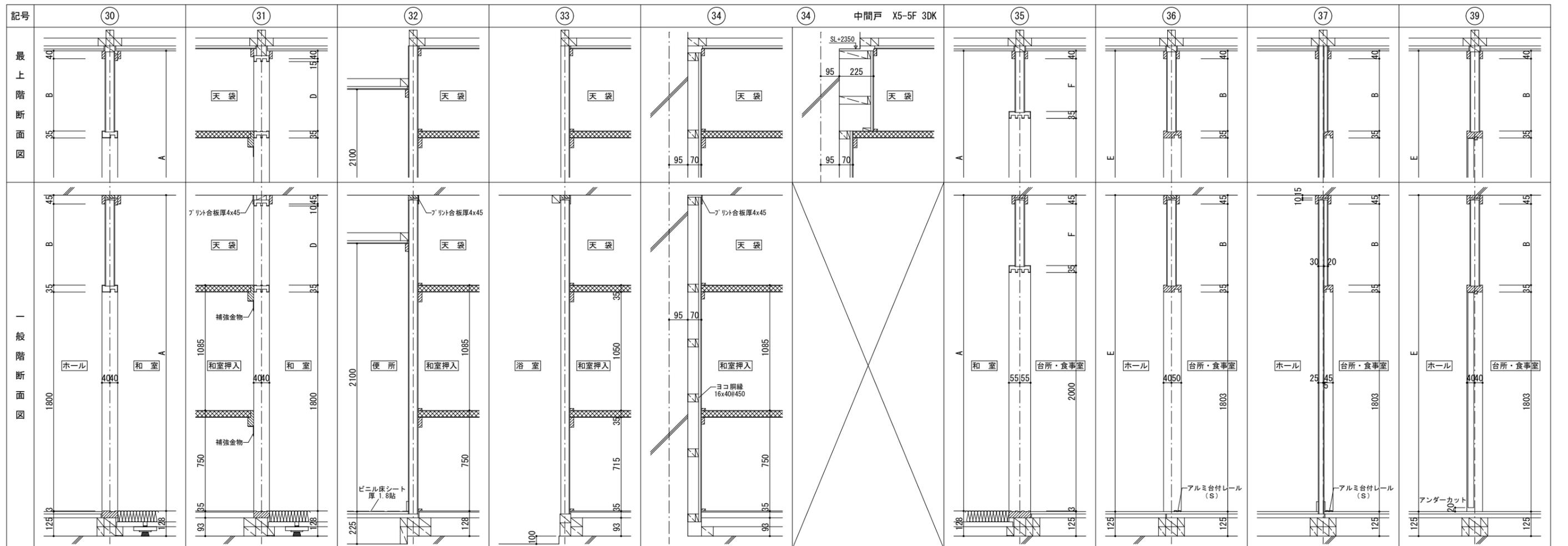
階高	和室天井高	A	B	C	D	洋室天井高	E	F	G	H
最上階	3150	2422	547	517	532	2425	347	525	135	
一般階	2800	2422	542	512	532	2425	342	520	130	

株式会社 本田建築設計事務所  
 一級建築士 登録第73615号  
 代表取締役 本田 伸太郎  
 検図 製図 設計  
 令和元年 6月

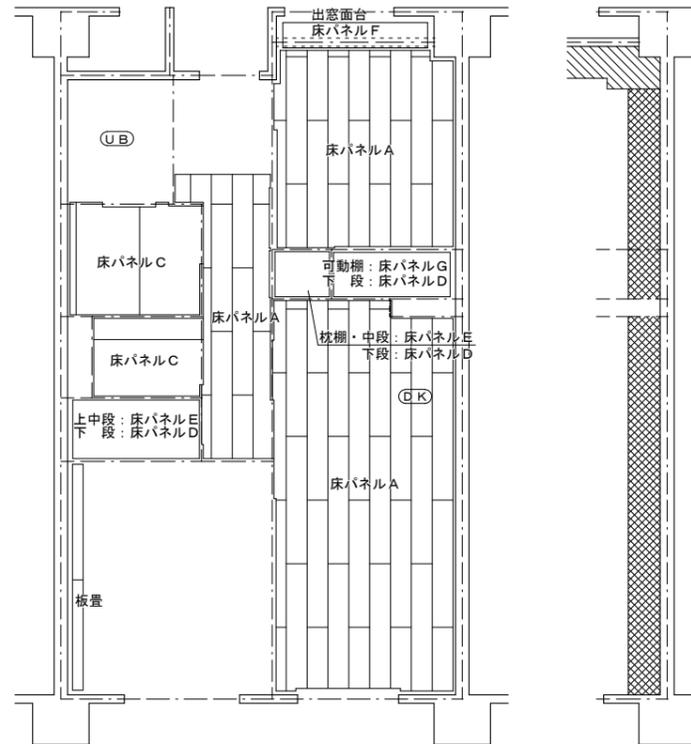
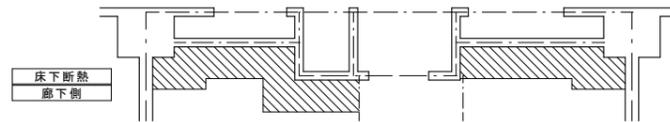
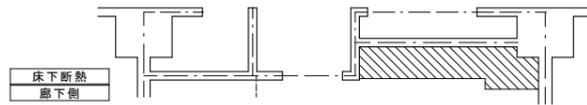
平針住宅建築工事 (第11工区) 図面番号  
 内装断面詳細図 1 縮尺 A1: 1/10 A3: 1/20 No. A47  
 愛知県建築局公共建築部公営住宅課



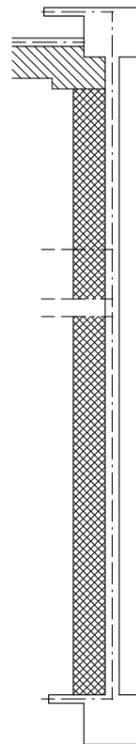
株式会社 本田建築設計事務所		
一級建築士 登録第 73615号		
代表取締役 本田 伸太郎		
検図	製図	設計
		令和元年 6月
平針住宅建築工事 (第11工区)		図面番号
内装断面詳細図 2	縮尺 A1 : 1/10 A3 : 1/20	No. A48
愛知県建築局 公共建築部 公営住宅課		



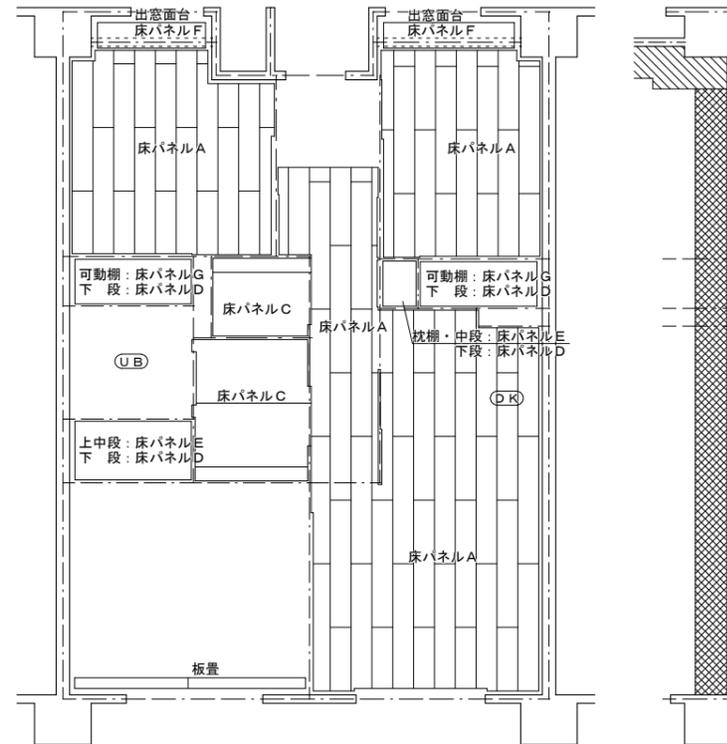
株式会社 本田建築設計事務所		平針住宅建築工事 (第11工区)		図面番号
一級建築士 登録第73615号		代表取締役 本田 伸太郎		縮尺
No. A49		A1 : 1/10		A3 : 1/20
No. A49		愛知県建設部建築局公営住宅課		



床伏図  
2DKタイプ



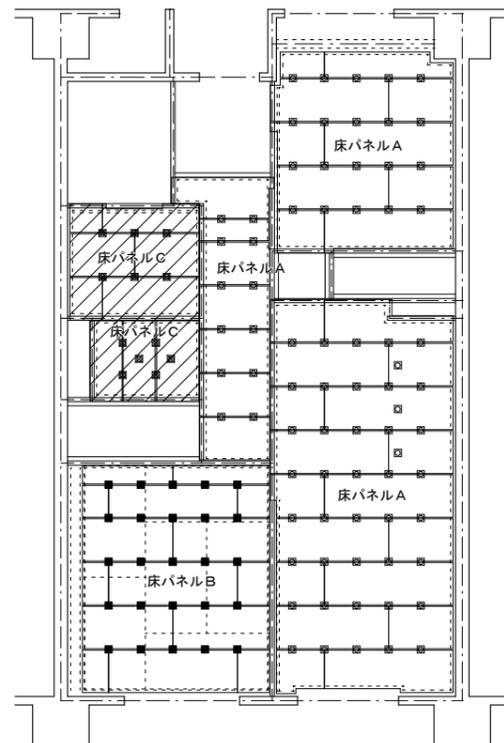
床下断熱  
DK側妻



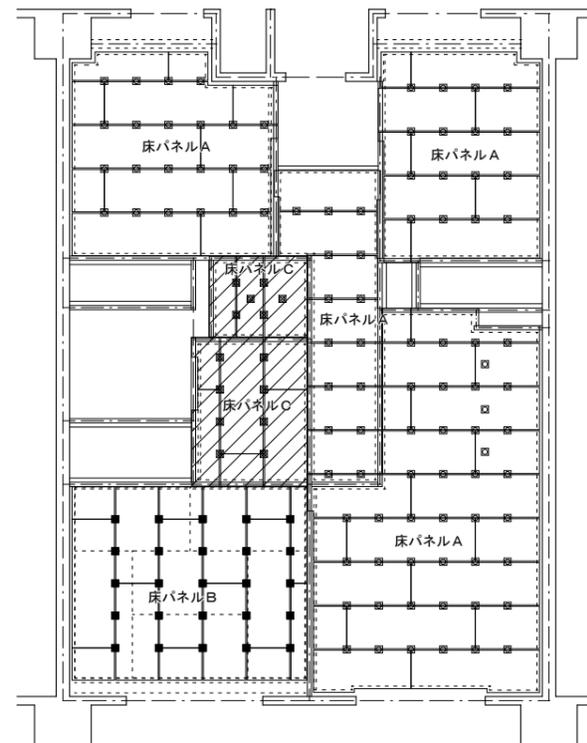
床伏図  
3DKタイプ



床下断熱  
DK側妻



床下地伏図  
2DKタイプ



床下地伏図  
3DKタイプ

- 支持脚 (30-85) を示す。
- ⊗ 支持脚 (50-185) を示す。
- 支持脚 (5-48) を示す。
- 流し台下のみ支持脚 (30-73) を3ヶ補強として拾う。
- 便所床のみ支持脚 (50-148) を2ヶ補強として拾う。
- 隙根太 36×45を示す。
- ===== 敷居下・パネル受け・パネル掛け 45×60を示す。
- の斜線は共用廊下側の居室・DK・物入類のみ  
F P厚20 (保温板3種b) 敷き込み範囲を示す。  
断熱範囲は壁断熱吹き付け面より450mmとする。
- は妻側の居室・DK・物入類のみ  
F P厚20 (保温板3種b) 敷き込み範囲を示す。  
断熱範囲は壁断熱吹き付け面より450mmとする。
- の斜線はパーチクルボードパラフィン処理範囲を示す。  
パラフィン処理は洗面・便所のみを範囲とする。

表面材		
床パネルA	複合フローリング (ナラ・タモ化粧) パーチクルボード	712.0 720.0
床パネルB	パーチクルボード	725.0
床パネルC	ビニル床シート 防虫合板 パーチクルボード (パラフィン処理)	71.8 712.0 (T1) 720.0
床パネルD	ラワン合板	75.5 (T2)
床パネルE	MD F	72.7
床パネルF	ポリエステル化粧合板	74.0 (T1)
床パネルG	MD F	74.0



基本パネル標準図

名称	押入・物入 (床パネル・可動棚パネル)	押入・物入棚パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切小壁パネル	天井パネル (合板)	天井パネル (断熱入り)	天井パネル (石膏ボード)
厚さ	35	35	15・46・50	15・46・50	15	20+4	20.5
仕様	中棧はピッチ225mm以内とする	ペーパーハニカムコア充填	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ600mm以内とする
基本構造図							

分類	タオル掛け・紙巻き器補強	L型手摺補強	洗面化粧台・キャビネット補強	棚受け桟木補強	押入棚受け補強	縦1型手摺補強	将来対応手摺補強	吊り戸棚・水切下地補強	耐震付鴨居補強	PB入りパネル	炭化防止パネル	炭化防止パネル	クーラー補強
パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	間仕切パネル	壁パネル	間仕切パネル	壁パネル
基本補強図													

分類	差圧ダンパー補強 分電盤・ガスコック補強	スイッチ・コンセント補強 クーラースリプ補強	換気スリプ補強	電気BOX内蔵パネル 間仕切パネル	点検口付パネル 天井パネル	点検口付パネル 壁・間仕切パネル	乾式二重床	
パネル	壁パネル	壁パネル	壁パネル	間仕切パネル	天井パネル	壁・間仕切パネル	乾式二重床	
基本補強図								

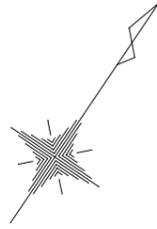
分類	アルミコーナー材	間仕切パネル隠い突	タオル掛け	押入補強金物	水切下地受金物	アルミ台付レール (S)	への字アングル
付属部品細図							
分類	塩ビコーナー材	C型カーテンレール	鴨居受金物	パネル止め金物	アルミ台付レール (W)	C型カーテンレール (W)	

付属部品細図	キャップ SUS430		上段方立部材 SUS304	ヨコ長バカ穴	メッキ六角ボルト	ランナー 8ヶ
株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)		図面番号		No. A52	
一級建築士 登録第73615号	基本パネル標準図		縮尺		A1: 1/40 A3: 1/80	
代表取締役 本田 伸太郎	愛知県建築局 公共建築部 公営住宅課		設計		令和元年 6月	

床・棚・壁・間仕切・天井パネルはF☆☆☆☆  
住宅部品表示ガイドラインに基づく「内装パネルのホルムアルデヒド発散区分表示」を示す。

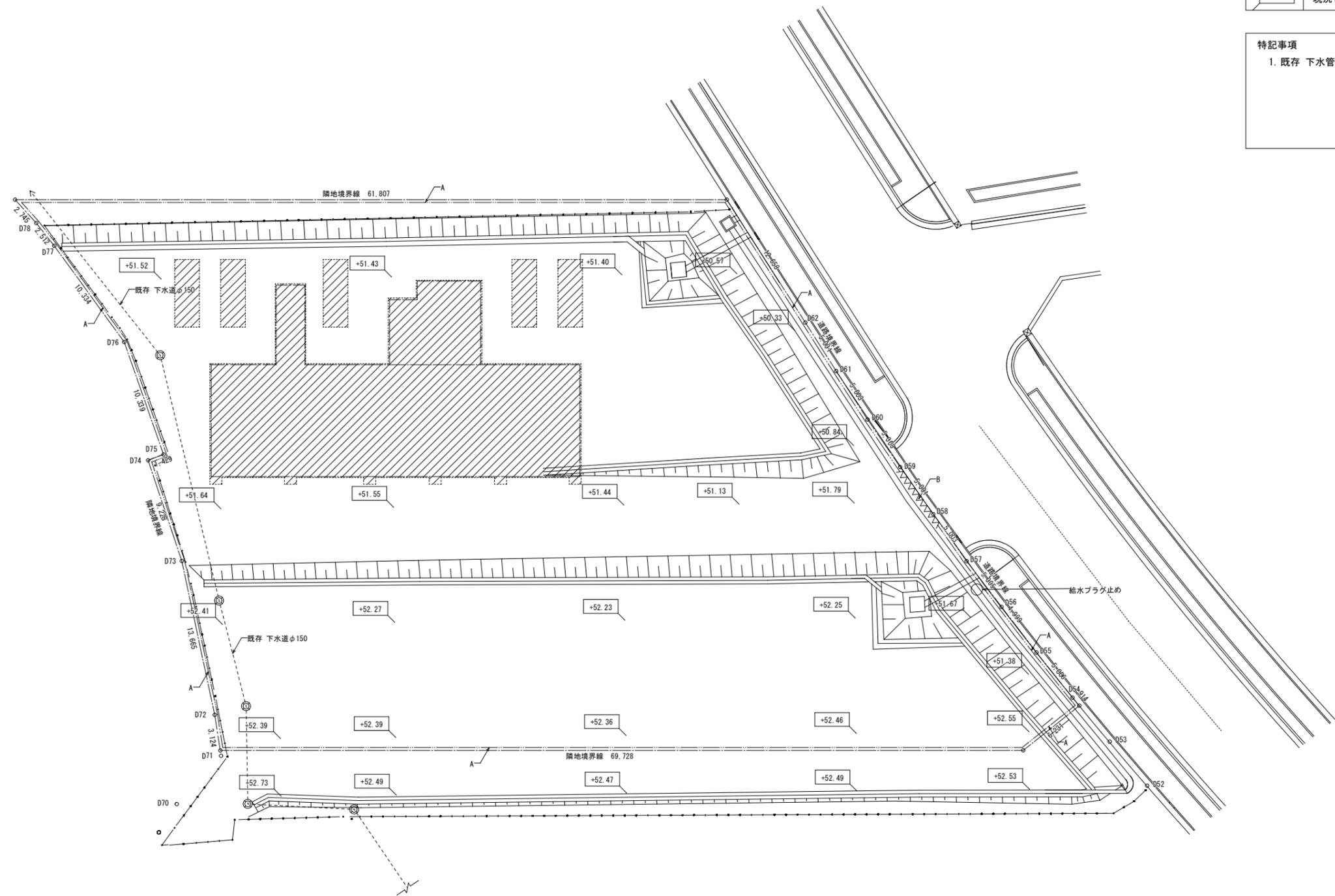
その他  
1. 下地補強については、監督員と協議の上必要箇所へ施すこととする。  
2. 壁目地と天井目地は意匠性を考慮し出来る限り合わせる。  
3. 複合フローリング・合板はJASによる防虫処理合板認定品とする。

株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)	図面番号
一級建築士 登録第73615号	基本パネル標準図	縮尺
代表取締役 本田 伸太郎		A1: 1/40 A3: 1/80
No. A52	愛知県建築局 公共建築部 公営住宅課	



凡例		
—A—	仮囲い	成形鋼板 (特記無き限りH=3.0mとする。)
∧∧∧∧	パネルゲート	W=6.3m、H=4.5m
▨	新築建物	
+51.66	現況レベル	W=6.3m、H=4.5m

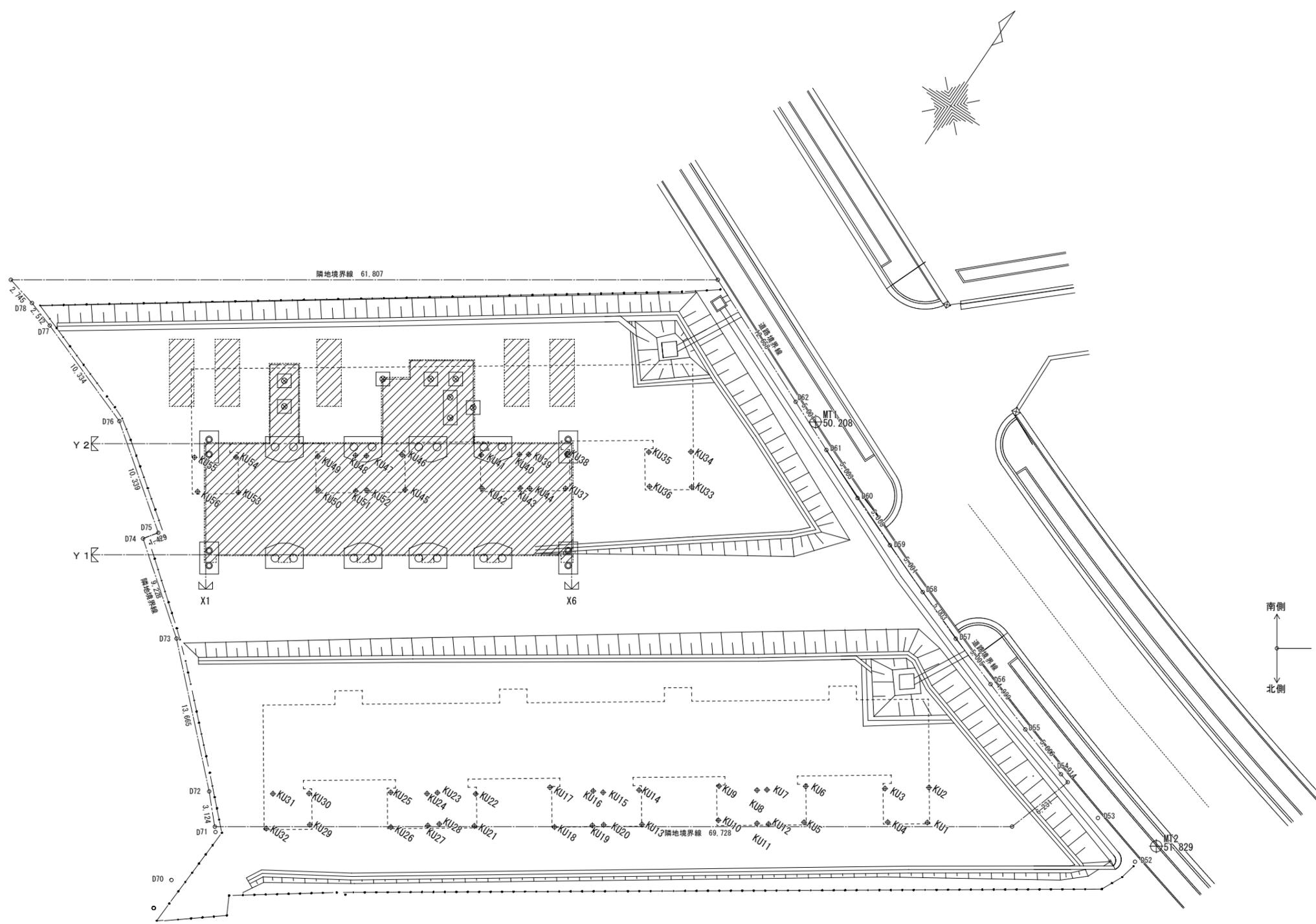
特記事項  
 1. 既存 下水管と新築建物が近接した箇所は適切に山留めを行うこと。



株式会社 本田建築設計事務所		平針住宅建築工事 (第11工区)		図面番号
一級建築士 登録 第73615号 代表取締役 本田 伸太郎		現況図、仮設計面図	縮尺 A1 : 1/200 A3 : 1/400	No. A53
概	製	設計 令和 元年 6月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	

座標リスト				
点番	点名	X座標	Y座標	標高
289	MT1	-99062.858	-14427.956	50.208
290	MT2	-99076.960	-14382.496	51.829

既設杭 座標リスト					
工事内容 (撤去 全長) ※1	撤去 (一部)	残置	点番	点名	標高
	○		231	KU1	51.563
	○		232	KU2	51.556
	○		233	KU3	51.545
	○		234	KU4	51.536
	○		235	KU5	51.560
	○		236	KU6	51.785
	○		237	KU7	51.806
	○		238	KU8	51.799
	○		239	KU9	51.554
	○		240	KU10	51.466
	○		241	KU11	51.524
	○		242	KU12	51.559
	○		243	KU13	51.533
	○		244	KU14	51.537
	○		245	KU15	51.552
	○		246	KU16	51.539
	○		247	KU17	51.372
	○		248	KU18	51.555
	○		249	KU19	51.564
	○		250	KU20	51.560
	○		251	KU21	51.571
	○		252	KU22	51.551
	○		253	KU23	51.555
	○		254	KU24	51.595
	○		255	KU25	51.543
	○		256	KU26	51.536
	○		257	KU27	51.554
	○		258	KU28	51.321
	○		259	KU29	51.544
	○		260	KU30	51.532
	○		261	KU31	51.543
	○		262	KU32	51.533
	○		263	KU33	50.602
	○		264	KU34	50.606
	○		265	KU35	50.592
	○		266	KU36	50.602
	○		267	KU37	50.527
	○		268	KU38	50.594
	○		269	KU39	50.598
	○		270	KU40	50.602
	○		271	KU41	50.589
	○		272	KU42	50.599
	○		273	KU43	50.613
	○		274	KU44	50.594
	○		275	KU45	50.593
	○		276	KU46	50.603
	○		277	KU47	50.598
	○		278	KU48	50.600
	○		279	KU49	50.605
	○		280	KU50	50.601
	○		281	KU51	50.591
	○		282	KU52	50.600
	○		283	KU53	50.606
	○		284	KU54	50.595
	○		285	KU55	50.592
	○		286	KU56	50.594



凡例		
⊕ KU**	既設建物 杭	コンクリート杭 φ350 L=22000 工事内容は「既設杭 座標リスト」による
---	既設建物 外形	解体済み（基礎共）
///	新築建物	
○ ⊗	新築建物 基礎・杭	仕様は別紙（構造図）による

- 特記事項
- 杭の撤去前に必ず全ての杭芯を測定後、撤去を行うこと。また残置杭については杭芯位置座標図を作成し、監督員に提出すること。
  - 杭撤去後の穴には一軸圧縮強度0.5N/mm<sup>2</sup> (W/C=200%)程度のセメントミルクで埋め戻すこと。
  - ※1: GL-2.5m (+49.16) まで撤去
  - GL=+51.66 その他敷地内レベルは別紙現況図による

株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事（第11工区）	図面番号
一級建築士 登録 第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	杭撤去図	縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400
No. A54	設計 令和 元年 6月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課

1. 鉄筋の表示記号

Table with 4 columns: 鉄筋種別 (Reinforcement type), 表示記号 (Symbol), 規格 (Specification), 表示記号 (Symbol). Rows include D10, D13, D16, D19, D22.

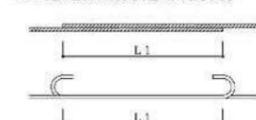
(注) 本図集において、鉄筋の表示方式は、上記の形式とする

2. 鉄筋の表示方式

Table with 2 columns: 表示方式 (Representation method), 表示例および内容 (Representation example and content). Rows show n-D, Dφ, Dφ(L), Dφ D'φ, and DφφLφ.

(注) 本図集において、鉄筋の表示方式は、上記の形式とする

L1 (重ね継手) の長さは下図に示す値とする



公共住宅標準詳細設計図集

3. 鉄筋の定着および継手長さ

Table with 4 columns: コンクリート設計基準強度 Fc (Concrete design strength), 鉄筋の種別 (Reinforcement type), フックの有無 (Hook presence), L1, L2, L3 (Development lengths).

継手の定着
\* 重ね継手と定着の長さの3乗を基準とする。ただし倍が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、短い方の公称直径による。

- ① L1は継手並びに下記②及び③以外の定着長さを示す。
② L2は異形鉄筋で割断鉄筋の付かない箇所の定着長さを示す。
③ L3は小径及び片側の下部鉄筋の定着長さを示す。但し、温度調整板、これを受ける小径などは除く。

共通事項 (その1) R-1-1

1. 鉄筋のかぶりの厚さの最小値 (mm)

Table with 3 columns: 構造部分の種類 (Structural part type), 厚さ (Thickness), 全てのコンクリート (All concrete). Rows include 土に接しない部分 (Non-soil contact) and 土に接する部分 (Soil contact).

- (注) 1. 日地がある場合の最小厚さは、日地高からとする。
2. 上表は、普通重量コンクリートの場合も含む。
3. 仕上げありとは、タイル張り・タイル張り等の仕上げのあるものとし、仕上げ材料等により鉄筋の断面寸法が異なるものは除く。

2. 梁壁の埋込り

壁体と柱と梁が同一面で仕上る場合については、断り上、最も不利になる鉄筋のかぶり厚さを確保し、梁の埋込り幅を決定する。



公共住宅標準詳細設計図集

仕 様 附 記 事 項 名称 共通事項 (その3) 縮尺 R-1-3

1. 鉄筋の折曲げ規準

Table with 4 columns: 曲げ角度 (Bending angle), 折曲げ径 (Bending diameter), 鉄筋の規格 (Reinforcement specification), 使用箇所 (Usage location).

(注) Dは、曲げ内の半径

Table with 4 columns: 折曲げ角度 (Bending angle), 折曲げ径 (Bending diameter), 鉄筋の規格 (Reinforcement specification), 使用箇所 (Usage location).

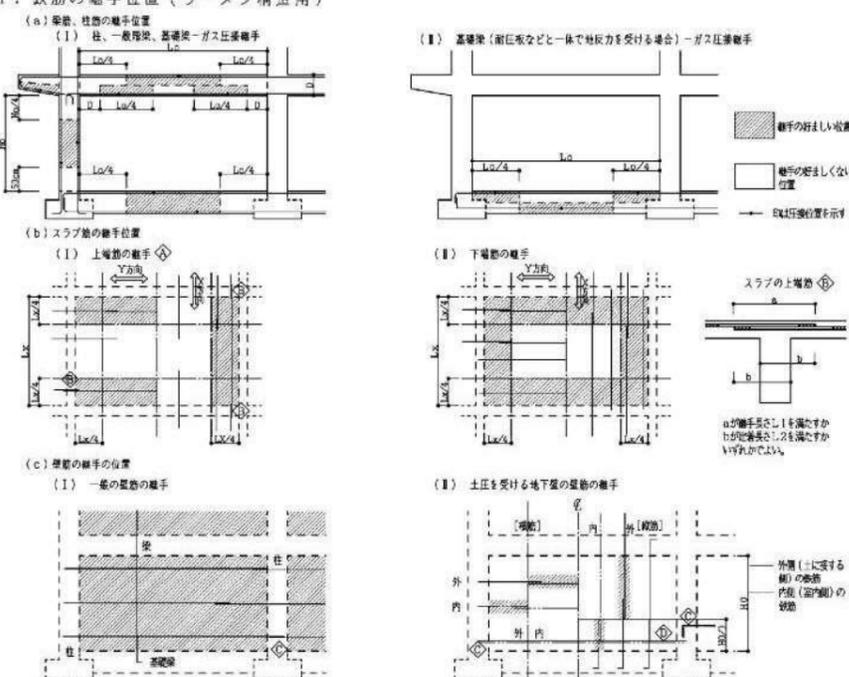
フックを必要とする末端部を次に示す。
1) 異形鉄筋では彎曲、および他
2) 埋込りに用いる鉄筋 (壁の一部となる場合を含む)
3) 一般埋込、梁 (基礎部を除く) の出隅部分の重ね継手

ひび割れ防止に用いる渡巻金網及び鉄筋格子の定着長さは、支持部材の内表面から渡巻金網及び鉄筋格子の最外縁の長さまでの距離とし、その柱は断面周長に50mmを加えた長さとし、かつ150mm以上とする。

共通事項 (その2) R-1-2

公共住宅標準詳細設計図集

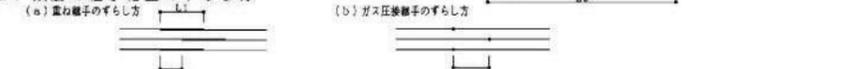
1. 鉄筋の継手位置 (ラーメン構造用)



鉄筋の継手は原則として耐力の小さいところ、かつ降伏後コンクリートに圧縮力が生じている部分に設ける。また継手は一方側に集中することなく相互にずらして設けることとする。

壁の縦筋及び筋筋の内外関係は、構造を被覆の外側に配する。但し、土圧を受ける地下壁は、縦筋を被覆の外側に配する。

2. 鉄筋の継手相互のずらし方

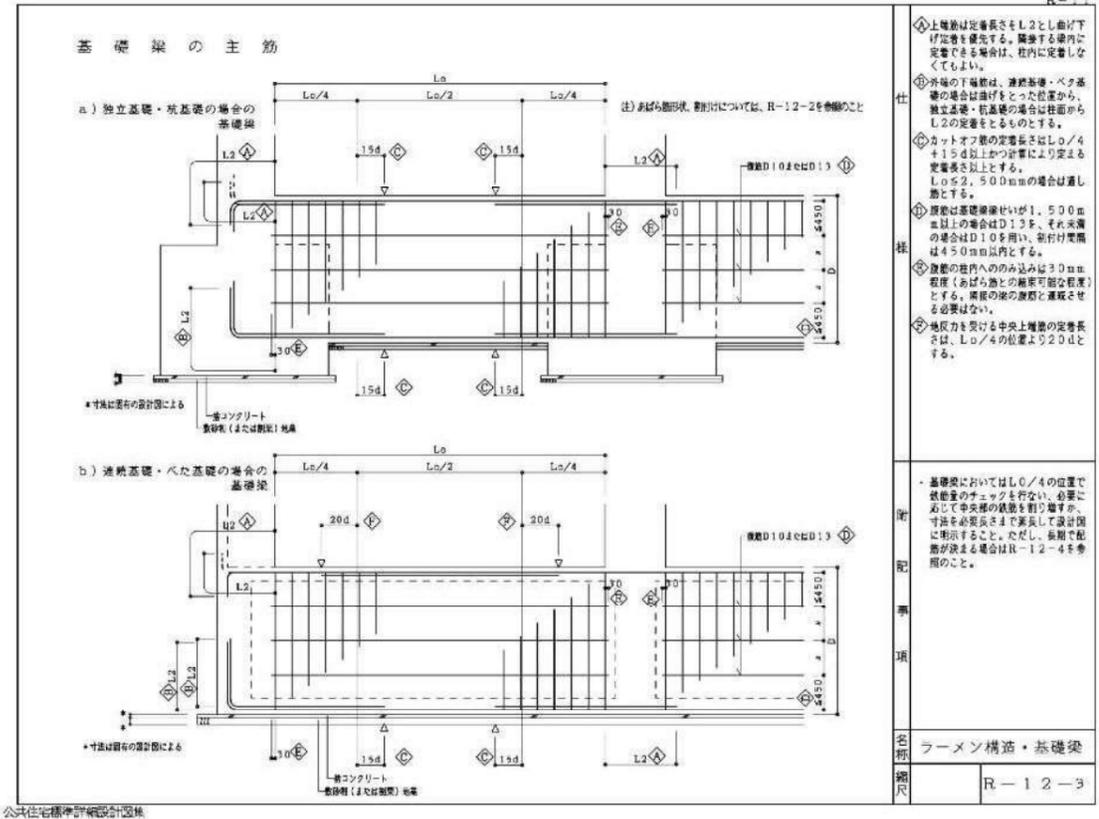


公共住宅標準詳細設計図集

共通事項 (その4) R-1-4

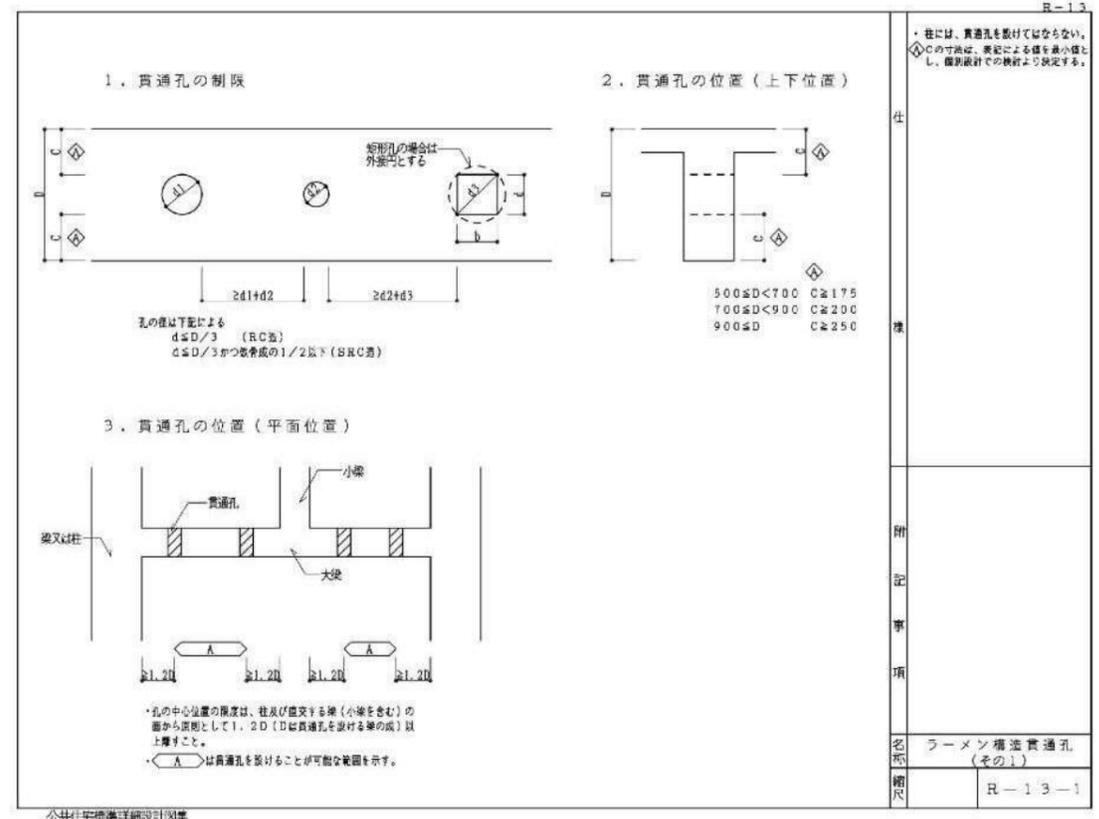
Table with 4 columns: 谷建築事務所 (Tani Architect), 株式会社 本田建築設計事務所 (Honda Architect), 平針住宅建築工事 (第11工区) (Heiwa Residential Building Work (11th District)), 図面番号 (Drawing No.).





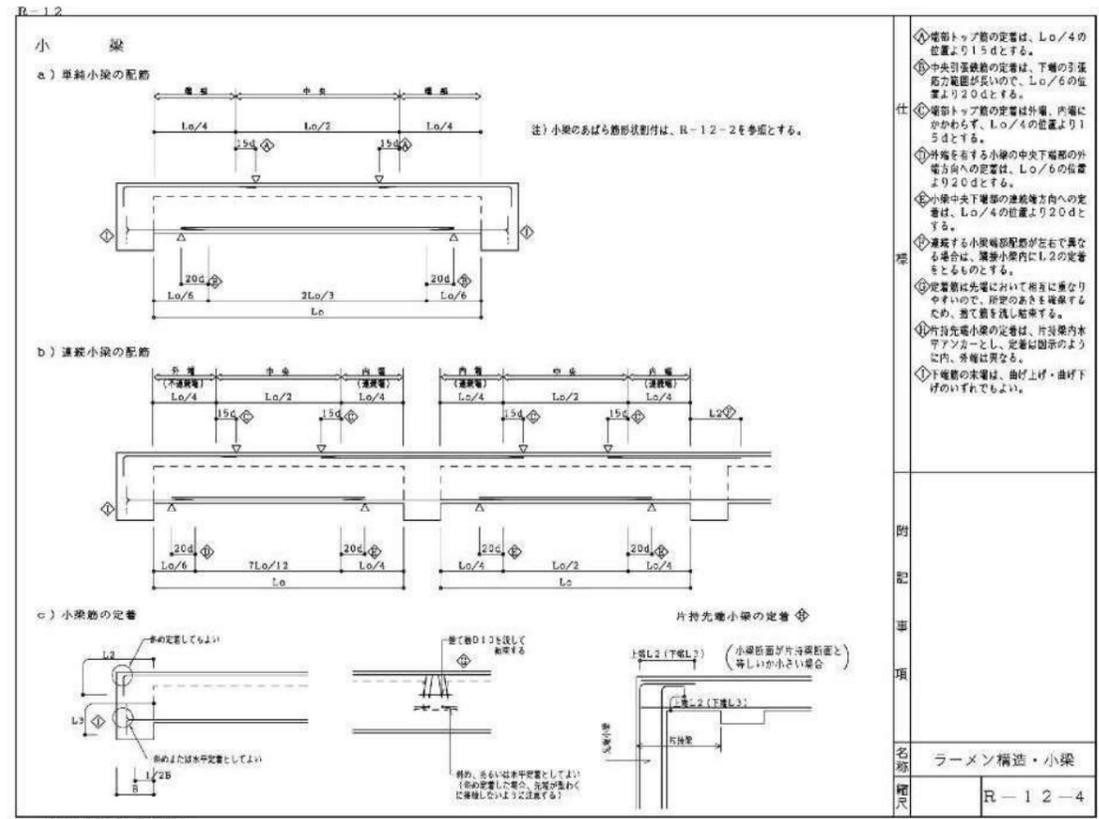
公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>上層筋は定着長さsとし曲げ下げ加算を要する。降下する層内は定着できる場合は、柱内に定着しなくてもよい。</li> <li>外端の下層筋は、連続基礎・ベタ基礎の場合は曲げをとった位置から、独立基礎・杭基礎の場合は柱面からL/2の定着をとるものとする。</li> <li>カットオフ筋の定着長さは<math>L_c/4 + 1.5d</math>以上かつ計算により定まる定着長さ以上とする。L<sub>c</sub>≦2.500mmの場合は差し差しとする。</li> <li>筋間は基礎幅が1.500m以上の場合はD13を、それ未満の場合はD10を用い、筋付け間隔は450mm以内とする。</li> <li>壁筋の柱内へのみ込みは30mm程度（あばら筋との継ぎ手可能な程度）とする。両側の筋間を連続させる必要はない。</li> <li>地震力を受ける中央上層筋の定着長さは、L<sub>c</sub>/4の位置より2.0dとする。</li> </ul>
附	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎梁においてはL<sub>c</sub>/4の位置で状態量のチェックを行ない、必要に応じて中央部の鉄筋を削り縮すか、寸法を必要長さまで延長して設計図に明示すること。ただし、長期で配筋が決まる場合はR-1.2-4を参照のこと。</li> </ul>
記	ラーメン構造・基礎梁
事	R-1.2-3
項	
名	
類	
尺	



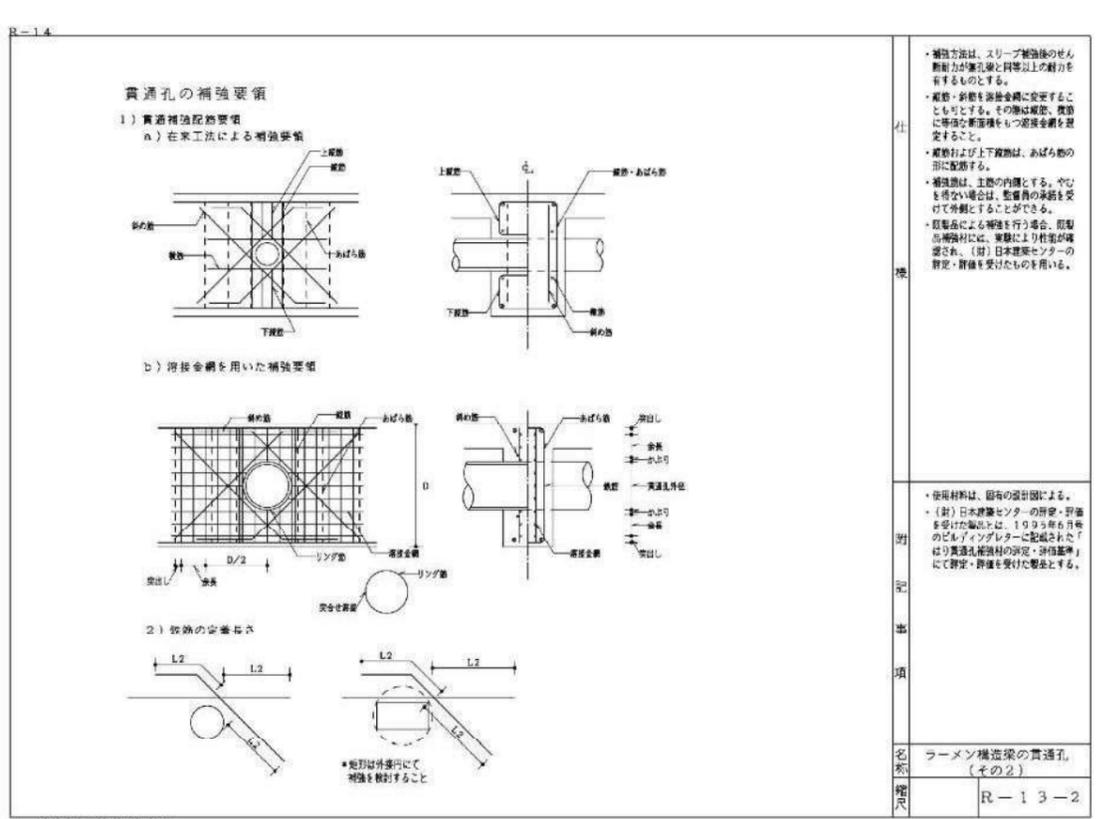
公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>柱には、貫通孔を設けてはならない。</li> <li>○の寸法は、規格による値を最小値とし、個別設計での検討より決定する。</li> </ul>
附	
記	ラーメン構造貫通孔 (その1)
事	R-1.3-1
項	
名	
類	
尺	



公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>端部トップ筋の定着は、L<sub>c</sub>/4の位置より1.5dとする。</li> <li>中央引張鉄筋の定着は、下層の引張筋力範囲が長いので、L<sub>c</sub>/6の位置より2.0dとする。</li> <li>端部トップ筋の定着は外端、内端にかかわらず、L<sub>c</sub>/4の位置より1.5dとする。</li> <li>外端を有する小梁の中央下層筋の外端方向への定着は、L<sub>c</sub>/6の位置より2.0dとする。</li> <li>小梁中央下層筋の連続方向への定着は、L<sub>c</sub>/4の位置より2.0dとする。</li> <li>連続する小梁端部筋が左右で異なる場合は、隣接小梁内にL/2の定着をとるものとする。</li> <li>定着筋に光電において相互に乗りやみするので、固定のあきを確保するため、当て筋を差し加算する。</li> <li>引張先端小梁の定着は、片側梁内水アングラーとし、定着は図示のように、各層は異なる。</li> <li>下層筋の末端は、曲げ上材・曲げ下げのいずれでもよい。</li> </ul>
附	
記	ラーメン構造・小梁
事	R-1.2-4
項	
名	
類	
尺	



公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>補強方法は、スリーブ補強体のせん断耐力が梁孔梁と同程度の耐力を有するものとする。</li> <li>縦筋・斜筋を連続金網に変更することも可とする。その際は縦筋、斜筋に等価な断面積をもつ補強金網を要する。</li> <li>縦筋および上下層筋は、あばら筋の筋に配筋する。</li> <li>補強筋は、主筋の内側とする。やじを得ない場合は、縦筋の筋筋を受け外側とすることができる。</li> <li>取組品による補強を行う場合、取組品補強材には、実数により性能が確認され、(財)日本建築センターの認定・評価を受けたものを用いる。</li> </ul>
附	
記	ラーメン構造梁の貫通孔 (その2)
事	R-1.3-2
項	
名	
類	
尺	

谷建築事務所	株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)	図面番号
一級建築士 登録第173794号 構造設計一級建築士登録番号 第5433号 谷 洋	一級建築士 登録第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	配筋基準図(3)	前尺 A1: 二 A3: 一 No. S03
構造関係規定に適合することを 確認した。	換 製 計 令和元年 6月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	

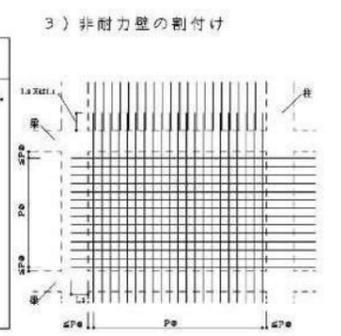
### 非耐力壁

#### 1) 非耐力壁 配筋リスト

呼称	W100	W120	W150	W180	W200	備考
断面図 (立面図)						幅止め筋設置
縦筋	D10 〇 250	D10 〇 200	D10 〇 150	D10 〇 200	D10 〇 200	
横筋	D10 〇 250	D10 〇 200	D10 〇 150	D10 〇 200	D10 〇 200	
開口部補強筋	1 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	
開口部側の補強筋	1 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	

#### 2) コンクリートブロック壁 配筋リスト

呼称	CB100	CB150	CB200	備考
断面図 (立面図)				* 縦筋は配筋率を示す。
縦筋	D10 〇 400	D10 〇 400	D10 〇 400	
横筋	D10 〇 600	D10 〇 600	D10 〇 600	



R-15

仕 組 項 目

◆ 厚さ200mm×200mm以下の開口部については補強不要とし、縦、横筋ともに開口部を避けて配筋する。  
 ◆ 斜め補強に格子鉄筋を用いる場合は詳細はR-14-2を参照のこと。

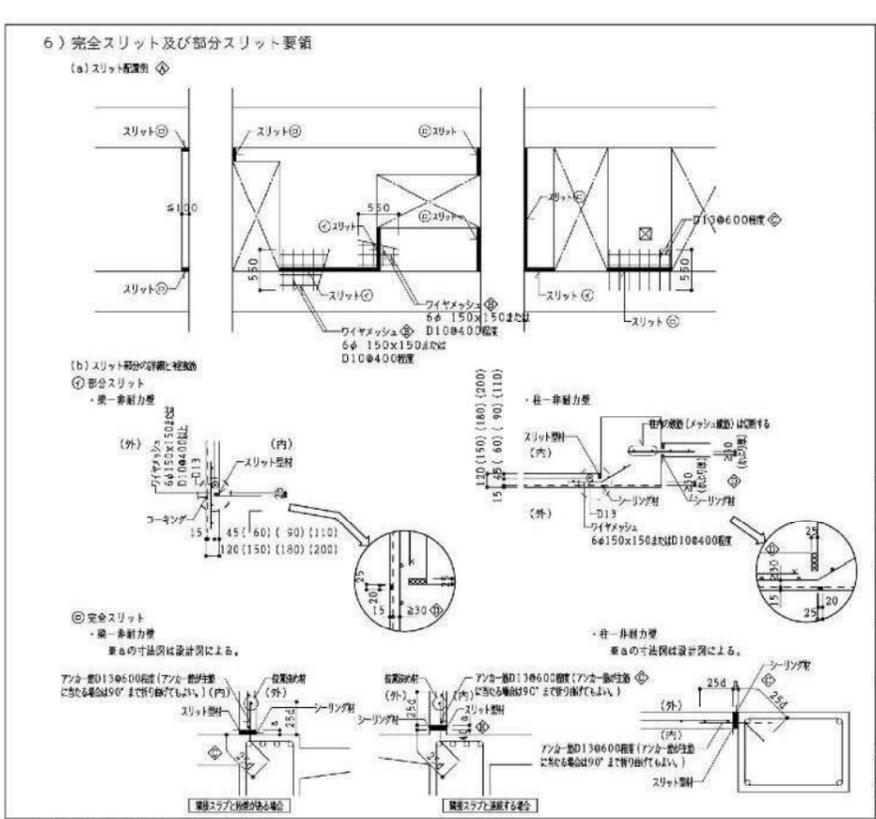
◆ 非耐力壁の定置長さ、縦筋・横筋共にし。とする。  
 ◆ W180, W200の場合には、幅止め筋をD10 〇 1,000以内に取り、幅止め筋は、壁縁部に水平方向に配筋する。

◆ 壁のダブル配筋を行う場合、縦筋は縦筋の外側に配筋する。  
 ◆ 壁の幅止めの筋の配置要領は、上型以外でダブル配筋を行う場合にも適用とする。

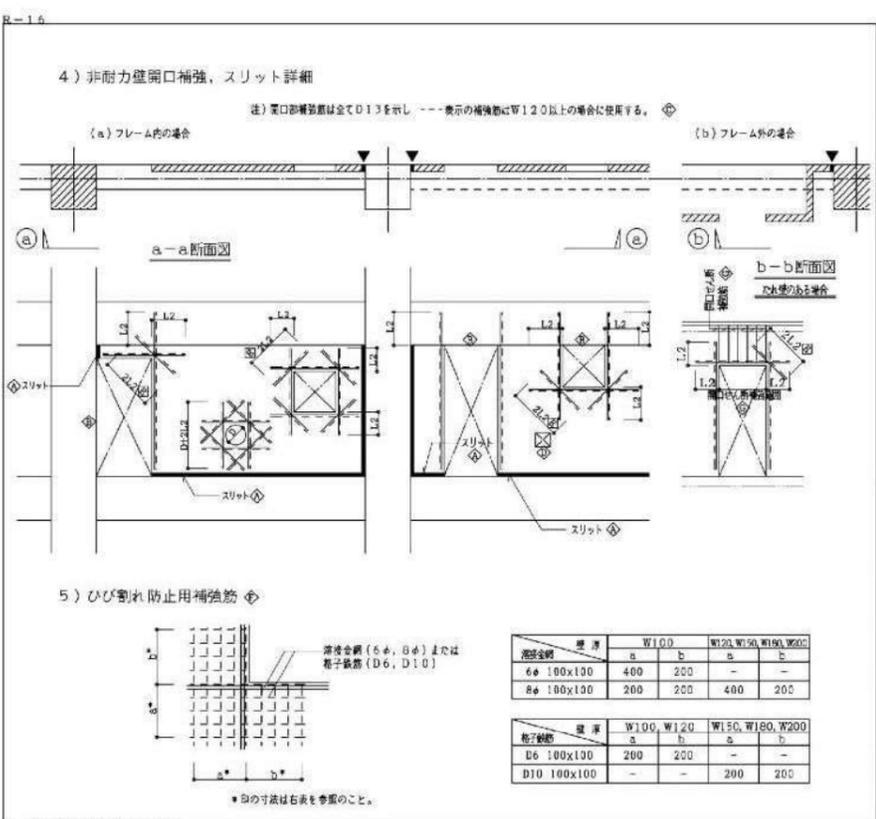
名称 ラーメン構造非耐力壁 (その1)

縮尺 R-14-1

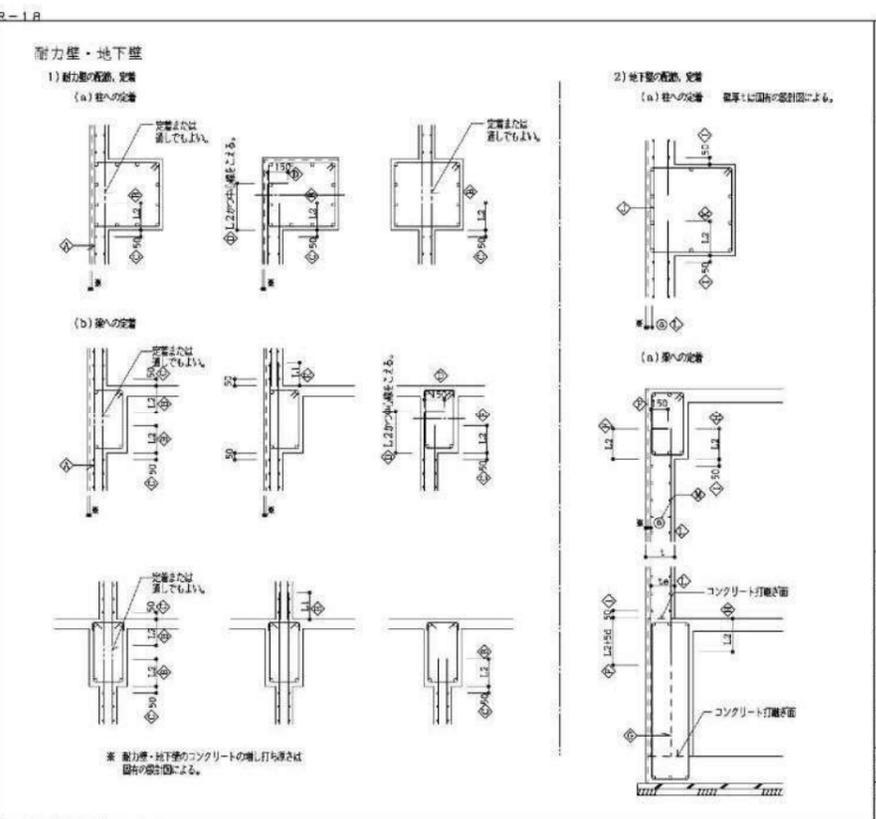
公共住宅標準詳細設計図集



公共住宅標準詳細設計図集



公共住宅標準詳細設計図集



公共住宅標準詳細設計図集

谷建築事務所	株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)	図面番号
一級建築士 登録第173794号 構造設計一級建築士登録番号 第543号 谷 洋	一級建築士 登録第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	配筋基準図(4)	前次 A1: - A3: - No. S04
構造関係規定に適合することを 確認した。	検 図 設 計 令和元年 6月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	

### 1. 梁増打ちコンクリート要領

B, D (mm)	e (mm)	50 < e ≤ 200
B, D ≤ 400	2 - D15	
300 < B, D ≤ 500	3 - D16	
500 < B, D ≤ 700	4 - D16	
700 < B, D ≤ 900	5 - D16	
900 < B, D ≤ 1100	6 - D16	
1100 < B, D ≤ 1300	7 - D16	

\* e ≤ 50 mm の場合は補強筋不要とする。

### 2. はり間方向屋根梁水勾配増打ち部の補強要領

はり間方向屋根の水勾配増打ち部の補強は以下に依る。

名称: ラーメン構造 梁増打ち要領  
縮尺: R-16-1

### 設備機器埋込み要領

仕 任 務 記 事 項 名 称 縮 尺

名称: 設備機器埋込要領  
縮尺: R-16-3

### 1) 柱増打ちコンクリート要領

D, D (mm)	e (mm)	50 < e ≤ 125
300 < B, D ≤ 500	3 - D16	
500 < B, D ≤ 700	4 - D16	
700 < B, D ≤ 900	5 - D16	
900 < B, D ≤ 1,100	6 - D16	
1,100 < B, D ≤ 1,300	7 - D16	

\* e ≤ 50 mm の場合は補強筋不要とする。

名称: ラーメン構造 柱増打ち要領  
縮尺: R-16-2

### 1. 直接基礎の場合

(a) 台形断面基礎 (b) 長方形断面基礎

仕 任 務 記 事 項 名 称 縮 尺

名称: フォーム構造基礎 (その1)  
縮尺: R-17-1

谷建築事務所	株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)	図面番号
一級建築士 登録第173794号 構造設計一級建築士登録番号 第5435号 谷 淳	一級建築士 登録第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	配筋基準図(5)	前次 A1: - A3: - No. S05
構造関係規定に適合することを 確認した。	検 図 設 計 令和元年 6月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	